



金 熊 寺 梅 林

にて境内躑躅多く、附近に又躑躅が岡ありて初夏の候頗る美観を呈し古來躑躅を以て名あり。

金熊寺梅林は紀州街道を左右に見て直路進むべし、地は東信達村字金熊寺にあり一村兩溪盡く梅樹を以て充ち、花時は満目紅雲の漂ふを見るが如く最も勝景の地に茶店飲食店等を設けて遊杖の客の爲めに備ふとは云へ、物價は甚だ廉ならず、一乗山金熊寺は此の梅林の中にあり、役行者の開基にかゝり一に觀音院と稱し行

者自作の如意輪觀世音を本尊とす。

以上は金熊寺梅林に至るものにして、樽井驛より西すれば三丁にて樽井の海濱に出づ、是又海水浴の好適地として夏季遊ぶべし避暑客の爲めには宏大なる旅館の設けあり、又驛の南方數丁に式内の古社、雄神社あり神武天皇と彦五瀨命の二座を祀る。

電車乗車賃金 犬鳴登山の項に述べたる佐野驛まで難波より片道四十二錢、終電車佐野發難波行平時は午後十一時二十分前後(佐野仕立)樽井驛發難波行終電車は平時十時三十分頃(和歌山仕立)佐野驛は途中下車驛なり。

淡輪の魚釣り

樽井以南、淡輪に至る途次、尾崎驛に下車すれば近く尾崎村に蓮如上人の直筆になる六字の名號を本尊とせる西本願寺御坊あり、俗に之れを尾崎御坊と云ひ、近郷より參詣するもの多し、又箱作驛の南方數丁に田山稻荷神社あり、造營の年代詳ならざれども有數の古祠にして靈現著しと稱へ遠く和歌山地方より參詣するもの夥し。

淡輪驛は箱作の次驛にして南海鐵道會社の施設になる淡輪遊園地は驛の西方風光明媚なる一帯の地を以てす、其海濱は土佐日記に貫之の記したる黒崎の松原なり、次驛深日驛の海濱と共に泉南海岸中の双美たり、殊に淡輪は都人士の遊勝の地として南海鐵道會社に諸種の設備を整へ、電

車乗車賃金片道六十一錢、淡輪は途中下車驛なり。

地は昔時一介の漁村に過ぎざりしも今は旅館あり料亭あり、且つ漁獵多ければ特に釣舟の用意を設け、客の好みに應じて漁具を貸し、沖釣の便に供す（舟賃船頭付にて一艘八十錢の規定）此地より淡路洲本行連絡船あり、補遺參照。

費用

電車賃金一圓廿一錢、釣舟八十錢、其他雜費二十錢、一泊するとせば宿泊料八十錢以上、其他雜費五十錢もあれば可なるも上戸黨なれば之れ以上際限なからん

樽井、尾崎、箱根は途中下車驛にあらず。

越波にわが世飯のうらみ來て

定家

打ねる夢も此頃ぞ見る

孝子越の松茸狩

孝子越は紀泉の國境、飯盛山脈の一部にして孝子驛より下車すべし、山麓に橋逸勢父子の墓あり、傳へ云ふ、弘仁九年、逸勢罪ありて此地に流刑に處せられしが其娘孝心深く、父を慰め孝養を盡すこと深かりしにより時の里正其死後此處に塚を建て後生を吊ひしなりと、松茸は泉州至る處の山地に發生すと雖も此附近のものは香氣高く質また甚だよきを以て夙に孝子茸の名あり、南海鐵道會社にては採取者の便利を計り毎年時季に至れば山麓に案内所を設くるを以て一日の行樂としては些の遺憾なし電車は是又た往復割引乗車券を發賣さるゝ筈なれば其他の實費をこめて貳圓なれば充分ならん。

和歌浦探勝

和歌の浦は古來風光明媚の勝地として名あり、地は南海電車の終點地にして、院線と和歌山線の接續地たる和歌山市驛の所在地和歌山市を南方に距る約一里、此區間和歌山水力電車の便によるべしと雖も、和歌山市は徳川氏の親藩にして五十五萬石の舊城下たれば市内に探るべき名蹟多くまた和歌山を除くの外、市附近に勝區尠からざるを以て左に是れ等を述べと雖も強ち一日の旅路と云ふべからず、遊者は、豫め方向を定め時間の餘裕あらば好む方面は向はるゝが可なり。

深日驛を發したる電車は大小三ヶ所の隧道を出づれば前方遙かに和歌山城址を望んで間も無く紀の川驛に着くべし、浄土宗西山派の名刹總持寺

は此の西方數丁にあり、寶徳二年、明秀上人の開基にかゝる處、寺寶甚だ多し、又東方約十丁、園部村の山腹に楓樹の名所として有名なる鳴瀧寺あり、地は婦女子と雖も容易に行くべくして然も頗る幽邃を極め、堂後に瀧あり、大ならずとも風致を添え、秋葉霜に染むの候、其風光一幅の繪畫も尙且つ及ばざるの感あり、六十谷の大同寺は是れより東方數丁有功村字六十谷にあり、天臺宗の名刹にして僧最澄の創建する處、此の東方なる直川村の山腹に直川觀音堂あり、共に寺内の風光甚だ佳。以上は特に參詣するものは紀の川驛よりすべしと雖も道は和歌山市よりする方平坦にして便多し、殊に大同寺、直川觀音堂等に於て最も然りとす、和歌山市より鳴瀧までは道程約一里、人車賃金二十五錢位、大同寺も粗ほ同様。

和歌山市内の主なる名蹟は朝掠神社は驛の東南方約五丁、一に鷲の森神社と云ひ鷲の森堂前町にあり、大已貴神社を祀り、境内の古松は名高し西本願寺御坊は其南方にありて俗に鷲の森御坊と云ふ、顯如上人の創建にかゝり境域頗る廣く堂宇又甚だ宏壯なり、以上市内電車は本町三丁目下車して西すべし賃金三錢、水門吹上神社は驛の南方數丁、小野町二丁目にあり、社は水門、吹上の二座あり、水門は蛭子の神を、吹上は大已貴命を祀り、毎年一月十日は十日戎と稱へて盛大なる祭典を行ひ、非常に雑踏を極む、地は古事記に云ふ雄水門にして、神武天皇御東征の御時、皇兄彦五瀬命、流矢に當りて雄猛びし給へるは此所なりと傳へ、境内に其遺蹟を存せり、和歌山城址は市の中央虎伏山上にあり竹垣の城と云ふ電車は一の橋停留場にて下車すべしと雖も、僅かなる道程にて二區

に亘るを以て京橋にて下車する方可ならん、驛より京橋までは三錢、同一の橋までは五錢、京橋より一の橋まで直路二三丁を出です、一の橋は城の大手前なれば是れより入るべし、城は天正年間、羽柴秀長當國の領主となりし時、其臣桑山重晴に命じて築かしめし處、後、淺野家の有に歸し、徳川氏の代となりて徳川頼宣封せられ、爾來世々之れを襲ぎて明治維新に至る、樓閣今尙存して登るべし、其上閣は市街を隔て、東は遙かに龍門山に對し、西は海を隔て、近く淡路島を右方に、四國の山嶺を雲煙の裡に望み、北には紀の川は帶の如く脚下に葛城山脈は蜿蜒として橋壁の如く、南は和歌浦の風光畫の如く浮び其展望の勝稀に見る處、城内の一部今は公園となり、物産陳列場は北方に、和歌山縣立中學校は西邊に、和歌山縣廳は街路を隔て、其北方にあり岡公園は和歌山城の東南

岡口御門の南方にあり、全体岩石よりなる天妃山を中心とせし其周圍一圓の地にして山上に西南、征清、日露の紀念碑を建て其眺望の佳なることと和歌山城の夫れに譲らず、毎年招魂祭は其山上にて行ふ、其西方に古義真言宗の名刹、松生院あり、式内の古社岡の宮は其南方に、岡の宮の後脊、一帶の砂丘は俗に岡山と稱へ、全山悉く白砂を以てなり、山上に登れば古松枝を雜えて恰も海濱に至りしが如き趣あり、山の西腹には和歌山縣立師範學校、又東方の山麓を岡の宮より南に辿れば珊瑚寺、禪林寺、感應寺等の名刹あり、其他市内の各所を探れば枚舉に遑あらざるを以て詳しくは其地の名勝案内に譲り是れより先づ和歌浦に向はんか。市内電車と和歌山市内を出で、車庫前停留場を離れて翠松の枝を交へて長く連るを車窓より見るべし、之れ高松にして有名なる根上り松は此の南

端に近く存在す、根上り松は樹根地上より高く露はれて恰も蛸の足を簞
てしが如く甚だ奇觀を極めしものにして、明治の初年までは此種の老松
數ふること十指に餘りしと聞けど爾來伐採せしもの、枯凋せしものあり
て今は僅かに二三を殘すに過ぎざるは惜むべし、愛宕山圓珠院は此の松
林の中央より東方なる愛宕山の山麓にあり、古往は山上に安置せしも靈
驗著しく海上の船舶難破の災に罹るもの屢々ありしより今の地に遷す
と、山上の眺曠甚だよく、一路松林に達する處に狢口石あり、此の南方
街道の左側に龜遊岩ありて一は狼の口を開きしが如く、一は龜の遊ぶに
似たるが如き奇巖にして之れ又一名所たるを失はず、紅葉の名所秋葉山
は秋葉山停留場の南方にありて山上の風光甚だよく五百羅漢寺は其山麓
にあり、和歌山町は此の南方に近く、町の入口にて道は左右に岐れ右す

れば出島、左すれば玉津島方面に至り、何れの道に沿ふて進むも懸て相
合するを以て、そは遊者の意に任せ、茲には先づ右より述ぶることとせ
ん。
町の入口より前面右方に見ゆるは權現山にして其南面の中腹に東照宮あ
り、比叡山大僧正慈眼大師の開基にかゝり徳川家康の靈を祀り、初め神
佛混淆にして寺院の別當を附せしも明治維新後社格に改む、賽路を辿り
數十階の磴道を登れば壯重なる社殿あり、社域清淨にして森嚴、社前の
風光極めて佳なり大祭は毎年五月十六、十七日にて、十六日には船舞式
を其十六日には渡御式を行ひ和歌祭と稱へ其壯觀なることは近畿其類を
見ず、藩祖頼宣を祀りたる南龍社は其南麓、御手洗池の北方に、天満宮
は東照宮の西方、天神山にあり、菅公築紫に左遷の時、風波を避けられ

し靈蹟なりと傳ふ、此の前面、御手洗池の右方にある漁村は出島と稱へ
右方の山麓に沿ふて廻れば近時の設備になる新和歌浦あり、其風光の明
媚なること舊來の和歌の浦に譲らず、是れより海邊に沿ひ左すれば「和
歌の浦、汐みちくれば片男波、芦邊をさして田鶴なきわたる」の古歌に
詠まれたる片男波にして、青松の連りたる砂洲は長く延びて南に向ひ、
右に所謂新和歌の浦を控へ左は紺碧の清波を隔て、鹽津浦に對し、其眺
望の佳なる實に勝區中の勝區と云ふを得べし、夏時此附近は海水浴に最
も適す此處より、路を左背に求め、芦荻の間を縫ふて行くこと暫しにし
て眼鏡橋あり、橋は不老橋と稱へ之れを渡れば鹽竈神社右して、芦邊屋
昔は領主の此地に遊ばれし時、茶を献したるを以て芦邊茶屋と稱へ、萱
葺の雅なる建物なりしも今は和洋折裏に改造せしは時世の然らしむる處

とは云へ俗化したるは惜むべし、芦邊屋は旅館及び會席を以て名あり其
他此附近に同業者散在すと雖も時に不廉の譏あるは何地も同じ名所地の
常とも云ふべきか、因に此地蠣及び海苔を名物とす、海苔は淺草海苔に
比し更らに一層の香氣あり食膳に上すべし。
院本「三十三間堂棟由來」に謳はれたる「和歌の浦には名所が御座る、
一に權現二に玉津島、三に下り松四に鹽濱よ」云々は此附近に於て最も
見るべし（一に鹽濱は鹽竈とも云ふものあり、鹽竈ならば前に述べたる
鹽竈神社ならんも名所としては如何あらんか、寧ろ此地の東方、藻屑川
を隔てたる彼方に三葛と稱ふる鹽の製産地あり、其鹽田を高所より眺む
る方甚だ奇觀にして又た麗はし）一の權現は前に述べたる東照宮を云ひ
しもの、玉津島は玉津島神社にして芦邊屋の後方、奠供山の山麓にあり

古來和歌の神と稱へられ、神功皇后と玉津
姫を祀り、後方なる奠供山は聖武、稱徳兩
帝の行宮たる望海樓の址にして今はエレベ
ーターを以て山上に登るべく、山上眺矚の
勝に富み、和歌浦の風光は一瞬に集る。
芦邊屋の前なる三斷橋を渡りたる小島は妹
春山と云ひ、小丘の右に沿ひて廻れば頭上
に下り松の垂れたるあり、小丘の上に一基
の多寶塔建あるは慶安年間僧日護の建造に
かゝり、養珠院尼の靈骨を安置し、是れに
加藤清正朝鮮より凱陣の時持ち歸りしと云



(上)和歌の浦

觀海樓

(下)紀三井寺

全景



和歌の浦に
汐みちくれば
片男波
芦邊をさして
田鶴
なきわたる

ふ釋迦・阿雅、迦葉三體の佛像を納めたり、此の東方、水邊に接して建
てるは觀海閣にして前面遙かに紀三井寺を望み、右方近く片男波の勝區
を眺め得て、其絶景筆紙を以てすべからず。
紀三井寺は觀海閣の對岸、藻屑河口を隔てたる名草山の中腹にあり、一
に護國院金剛寶寺と稱へ、古來眞言宗の名刹にして西國巡禮第二番の靈
場として名高く、境内廣濶にして其風光又た近畿其比を見ざる處、彦五
瀨命を鎮めたる竈山神社は名草山の東方、和佐村大字和田にあり、官幣
大社にして社殿甚だ壯重なり、和歌山市より直路三里、日前國懸神宮は
此の北方約二里、宮前村字秋月にあり、官幣大社にして神域廣濶にして
幽閑、社殿又壯嚴にして四邊の風光と相俟つて森嚴の氣を覺え、賽者襟
を正さざるはなし、因みに日前宮、竈山神社の兩社參拜は和歌浦を遊覽

しての歸途廻るは覺束なきを以て之れは和歌山市より行を改めるが可ならん、市より日前宮迄直路一里。

貨電

金車

南海電車和歌山市迄往復平日ならば一圓四十一錢、新和歌浦行往復一圓六十六錢、紀三井寺行往復一圓六十八錢、新和歌浦紀三井寺行廻遊一圓七十六錢通用は何れも往は當日、復は五日間限り

和歌山電車和歌浦發和歌山市行終電車平時は午後十二時前後
南海電車和歌山市驛發難波行終電車平時は午後十時、難波着十一時五十分

根來の觀櫻

根來寺は近畿地方に於ける觀櫻の勝區として夙に名あり、地は和歌山市の東北約四里、根來村字西坂本にありて汽車は和歌山市驛より院線と歌山線により東すること九哩二、岩出驛に下車して北方約一里、乗車賃金十七錢、岩出は大和街道の要路に衝り人家稍稠密の地、其西端に熱田神宮、三所權現を祀れる岩出の大宮あり、境内に後鳥羽帝の御遺髪を埋めたる王塚ありて附近有數の名社とす、祭典は秋季行ひ、深夜に渡御する奇習あり、根來寺は驛の西方より一路北に向ふべし人車通じ賃金二十錢内外、寺は大治五年、僧覺鑿の創建にかゝり弘法大師作不動明王を本尊とする古來眞言宗の名刹たり、傳へ云ふ、開祖初め高野山の僧なりしが

學識卓越の爲めに反つて衆に容れられず逃れて此地に來りしに偶ま鳥羽上皇の勅諭あり以て開創したるは當寺にして夥多の僧侶此處に集り、密宗の修養場となりて堂塔伽藍二千七百有餘宇を有し、一山の繁昌、高野を凌ぐ程なりしも戰國に際し僧侶の意氣漸く猛くなり時に横暴を逞ふものありしより天正十三年豊臣秀吉の意に觸れ、大軍を以て攻め向ひ悉く鳥有に化せしめしが、後、當國の領主淺野幸長再興を計り、次で元和元年、紀藩の鼻祖徳川頼宣の力を致す處ありし結果舊觀を見るに至りたりとは云へ、其後再び衰頽に傾き、現今は僅かに數院を殘すに過ぎず然れども境内頗る廣濶にして殆んど三萬坪に達し、山あり溪あり一步一目趣を異にし、包むに老松古杉を以てし、殊に櫻樹は全山に亘つて其數到底數ふべからず、花季に至れば只た之れ滿山白雲を漲らし其壯觀嵐山に於

ても尙且つ見るべからず其雅趣吉野又た一籌を贏するの感あり、既往都人士の多く來らざりしは行路の便を缺きたる爲めなりしも今は鐵路によりて其憂ひ無く、大阪より岩出まで三時間ならずして達すれば一日の行樂として遺憾なからん、花時山麓に飲食店、料亭等の開くあり、價格高からず、味よに足るべし。

費用

南海線と院線連絡乗車券を發賣さるゝ筈なれども、個別の賃金を以てすれば難波和歌山市間往復一圓四十一錢、和歌山市岩出間通行税別にて往復三十八錢、根來にての飲食費、上戸下戸の別あれども一圓と見れば大差なからん、さすれば此合計二圓七十九錢

粉河まいいり

粉河寺は西國第三番の靈場にして寶龜年間以來の名刹なり、地は大和街道の要衝、伊都郡粉河町にありて院線と歌山線は其南端に粉河驛を設く驛は和歌山市驛を距る十四哩三、乗車賃金は三等片道通行税別にて二十九錢、南海鐵道にて連絡乗車券發賣する筈。

粉河町は紀の川の北岸にありて市井殷賑、商工繁盛なる一街區にして、粉河酢、粉河蒟蒻を以て名あり、旅館は金茂、金徳、喜樂等を著名なるものどす、宿泊料は一泊七十錢以上、中食三十五錢以上、尙此地は蕎麥を名物とするを以て平民的旅行なれば之れによつて中食に代ふるも宜しからん、但し其家の設備は元より大都の夫れに比すべくもあらざるは勿

論なり。

粉河寺は驛前より直路北方向ふこと五丁、粉河町の北端にありて補陀落山施音寺と云ひ、粉河寺は其俗稱なり、寶龜元年、大伴孔子古の創建にかゝり童男行者作、千手觀世音を本尊として安置す、創建以來何分にも千三百年近き星霜を経しことよて其間祝融の災に罹りしこともあるべし、また兵馬の衢に化せしこともあらん、従つて堂宇も改築されしは一更に止まらずと云へど、現在の伽藍は享保五年に造建したるものにして境域甚だ廣く、本堂の大き十五間四方を有し、其他童男堂、傳大士堂、行者堂、上宮太子堂、常念佛堂、參籠所、六角堂、御位牌堂、地藏堂、中島堂、羅漢堂を初め夥多の諸坊薈を並べし内にも童男、傳大士兩堂の彫刻建築及び賽路の左側にある御池坊に左甚五郎作虎の彫刻物の如きは

古來有名なるものなり、什寶又た夥しく晁殿司筆十六羅漢の圖は什寶中の珍寶たり、毎年三月十八日は縁日、六月十八日は祭禮、八月十八日は大曼荼羅會、十一月十八日は本尊出現の日として何れも參詣者甚だ多く粉河町の全町之れが爲めに頗る賑ふ、此の奥の院と稱する十禪律院は同寺の北方にあり、本堂は方四間の總檜造りにして精緻を極めたり、文政十二年藩主の建立にかゝりし處なりと云ふ。
長田の觀音は粉河町の西方約七丁、長田村字別所にあり、如意輪觀世音を本尊とし境内廣く堂塔また宏壯を極め、俗に長田の厄除觀音と稱へ常に參詣するもの多き内にも、毎年の初午二の午には近郷近在は元より和歌山方面よりの賽者夥しく甚だ雜沓す。

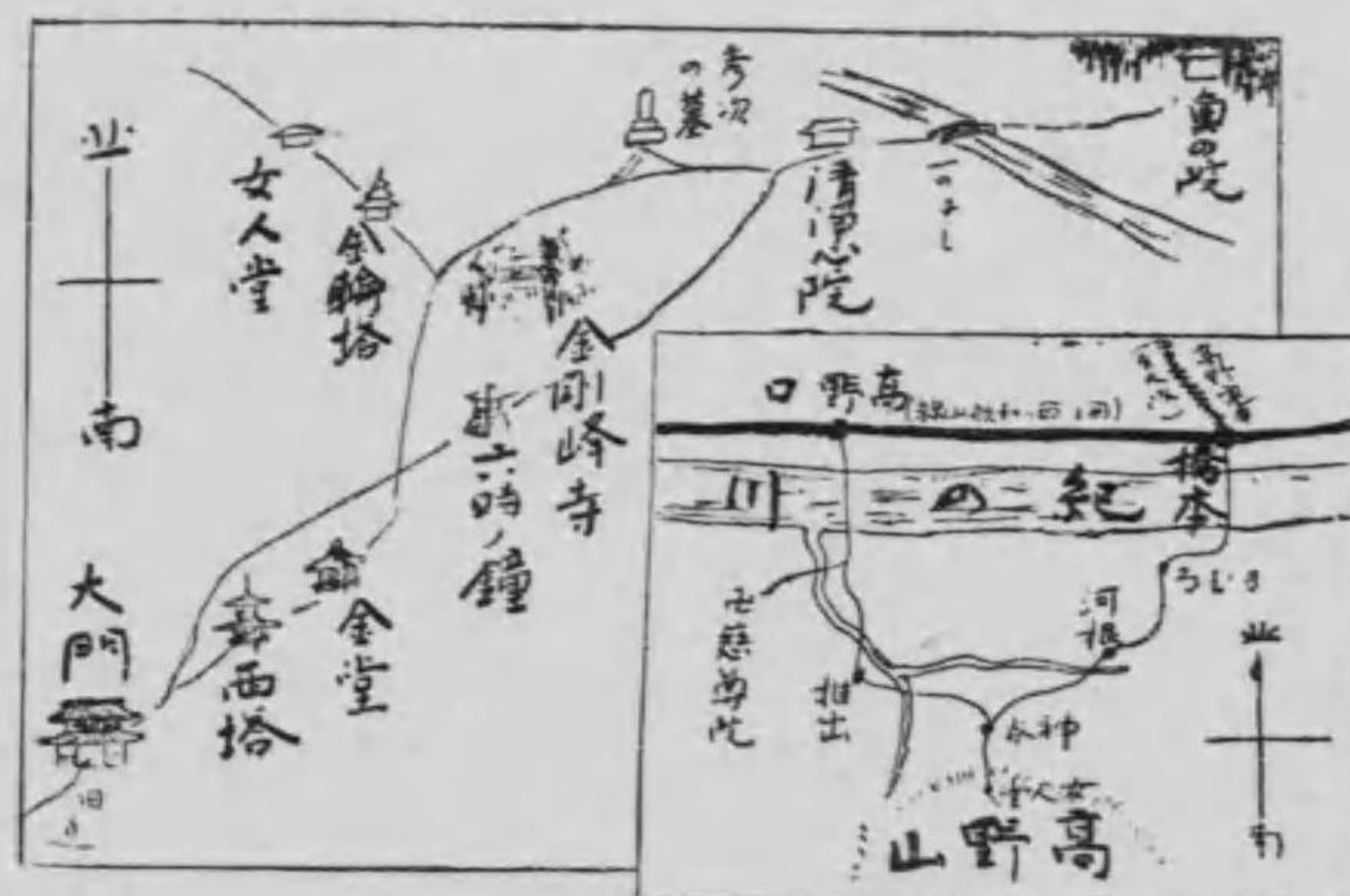
高野登山

高野山は海内第一の靈域として夙に傳へらる、之れが登山路は北麓の高野口若くは橋本よりするを最もよしとす、大阪より此の登山路に至るに高野電車によると、鐵道院線と歌山線によると、南海鐵道により院線を經由するの三路あり、其内高野電車は最も近く汐見橋(大阪)より橋本迄の哩程二十八哩一、乗車賃金七十三錢、和歌山線、關西本線により王寺驛を經由するものにして橋本迄の哩程四十四哩、乗車賃金八十九錢、南海線より和歌山線經由すれば六十七哩三にして乗車賃金は南海線七十六錢、院線五十五錢(但兩線とも通行税は別)此合計一圓三十一錢、途次南和地方若くは和歌山市方面或は根來寺、粉河寺等の遊覽參詣を兼ねての

行ならば兎も角、さなくば高野電車の便によらば最も近く殊に一日の行程としては尙更らなるべきか、即ち此の途中に要する時間を擧げんに、橋本まで高野電車ならば約一時間四十分、和歌山線ならば約三時間、南海鐵道經由ならば約四時間を要する譯にして然も高野電車は乗換の煩は全然無し。

尤も高野電車によれば無論橋本町より、院線によれば橋本驛或は高野口の何れかを撰むべしと雖も高野口驛よりの賽路には慈尊院の名蹟あるを以て高野電車によることも往路或は歸路道を之れにとるべし、橋本、高野口間哩程三哩四、此の乗車賃金七錢、院線によるなれば同驛より乗車して歸阪、高野電車なれば同驛より乗車して次驛橋本に下車し、電車に乗換へて歸阪するが宜しからん、即ち此の順路によつて述べんか、橋

本驛の所在地橋本町は和歌山縣伊都郡の東北に位し、南に紀の川を控えて交通甚だよく、大和河内兩國の街道に衝りて頗る殷賑の土地、此處より高野山上まで道程四里半を算す、登山せんには驛より道を街路に沿ふて南すれば紀の川沿岸に出ず、川を渡り右すること約一里、學文路に至れば其町はづれに仁徳寺あり、世に苜萱堂と稱ふるは之れにて石童丸の古蹟たる處、遺物を存し境内に石童丸の母、千里の墓あり、是れに賽して山路進むこと約一里、河根村に出づれば丹生、高野の兩神を祀れる産土神社と之が別當たりし日輪寺あり、此處より山上まで約二里、丹生川に架したる千石橋を渡り、約二十六丁を辿りたる地に觀音茶屋あるを以て憩ふもよし、茶屋より進むこと二三丁に黒石と稱へ、道の兩傍に岩石相望む處あり、之れ高野の敵討を以て有名なる明治四年の二月、播州赤



高野山 神谷は高野口驛より來る賽路と合する處にして五十餘戸の戸を有し、旅館料亭軒を並べし高野登山の要路とも云ふべきの地、殊に花屋旅館は弘法大師在世の頃に立花を參詣者に嚮ぎ、中世酒造を業とせしより毎年の御影供には清酒を

高野に贈りて大師の廟前に備へることとなり居れるほか古例の存するも多く一山の一名物と稱せらるゝ舊家なり、此地を後に稍平坦なる路を進むこと數丁に極樂橋あり、此橋よりは既に高野山の境域に屬し古來之れより上に斧鉞を加へしこと嘗て無ければ老杉古榎道を擁して轟々と聳え山氣人を壓して轉た淨境に入るの感を覺えしむ。

四十八曲りの不動坂は即ち此の橋より上にして弘法大師がいろはを作られたりと傳ふる處、岩逕崎嶇五歩に憩ひ十歩に休まざるべからず、坂の半途に、萬丈ヶ嶽の斷崖あり、一に萬丈轉がし又た千丈落しとも云ふ、古往は山内の禁を破りしものを投げ込みたりと傳へらるゝ處、不動阪を越え、不動前阪を登りて間も無く林間に鞆鞆と落つる雉子ヶ瀧の響を聞く、花折坂、俗に花坂と稱ふるは此附近の名にして花坂を辿り過ぐれば

漸く女人堂に達し、堂前の黒門をくゞれば身は既に山内の靈域、金剛峰寺の境内に入れるなり、因みに今は新道出来たれば辿るもの稀なれども神谷を出で四寸岩を過ぎるも興深からん、岩は子孫岩或は止駿岩とも稱え神谷の奥にありて巖石路を塞ぎ、僅かに通ずる處に四寸ばかりの足跡を印し、此處を通るもの此の足跡を踏まざれば行くべからず、足跡は往昔弘法大師の踏み初めしものなりと云ふ。

女人堂は古來女人禁制の山法なりしかば登路の口々に女人堂を建て、女人は夫れより入らしめざりしも明治五年大政官の布告により其禁を解かれたれば自然廢して今は此堂のみ残り、其傍に建てし境内標に記して云ふ、金剛峰寺境内百三十三萬八千八百五十四坪と、之れ當靈蹟の廣袤にして其廣大なること以て推すべしと雖も、弘仁二年、弘法大師、嵯峨

天皇の勅台を蒙りて開創せし當時は附近の山地七里四方を劃して其域内に收め一時は其僧坊七千七百を有したりと云へば到底現今の狀態を以て比すべくもあらざるべし。

金剛峰寺は古來眞言宗の本山にして當高野山の貫主司たり、其山號は初一山に命ずる處にして當山は眞然僧正の廟所なりしを文祿元年豐太閤其母公の爲めに巨利を建立し青巖寺と名けしに初まり、徳川氏の寺に至つて教義宗務所を當代に設け一山の宗務を司管せしめられしが明治の初年現今の名に改め、今尙數十の支院末寺を管する所たり、主殿には弘法大師の像を本尊として安んじ、又歷朝の御尊儀を奉安し、其廣さ東西三十三間南北二十五間を有して輪奐の美、結構の精致を極め殊に殿中柳の間は文祿四年、石田三成の讒言により其父太閤秀吉の怒に觸れて當山に遁れ

し關白秀次の自及せし處として史上に名高し。

花も 立圃

火を

六時鐘は金剛峰寺門前の南西にあり、寛永十二年、福島市之丞の建立する處にして山中時報の響般々遠く達す、金堂は其西方にあり高野一山の本堂にして開祖の建立以來屢々火災の爲めに焼失し、現今のは萬延元年九月竣工せしもの、高さ十五間、十四間四面を有し裝飾華麗ならざれども其結構甚だ壯重を極め、弘法大師作、高さ一丈六尺、金色薬師如來の座像



高野山



高野の三景



を本尊とし、脇士に金剛薩埵、普賢院薩埵、不動明王、金剛王菩薩、虚空藏菩薩、五大方明王等を安んじ、主坊と共に當山の双壁と稱せらる、其南方に特別保護建造物に編入されたる不動堂あり、又西方には大門あり、不動堂は建久四年の建造にかゝり當時四人の工匠に命じて隨意製作せしめしを以て四隅の構造一様ならず甚だ奇なり、大門は西口、即ち昔時和歌山より登山せし正路にありて一山の總門たる處、其高二十二間、桁二十五間、奥行九間を算し銅瓦を以て葺ける二重の樓門にして實に大門の名に脊かず、兩脇に佛師法橋連長の作になる金剛力士を安んじ、此處より西面すれば群山低く脚下に垂れて淡阿の海山遙かに眼眸に入り風光甚だ佳を極む、其他此處に至る附近根本大塔、御影堂、三鈷の松、西塔等何れも訪ぬべし、殊に三鈷の松は開祖大師唐土より歸朝の時、明州

の津より密教相應の靈地を占はんとして八祖相承の三鈷杵を投げしに三鈷雲に入りて東天に没せしが、歸朝の後、諸國を遍歴して偶ま此の山中に入りしに彼の三鈷光明を放つて此松の梢に掛りしかば即ち其地を靈地と定め松を現今の地に移して其後に大塔建つと、因みに當初の松は應仁元年に枯涸せしより其實生を植えつぎ、其後元祿三年三度植え代へしは現今のものにて瑞籬の中に二本立並べり。

又た奥の院は當山の東方にありて途次溪流に架せるを一の橋と云ひ、此處より約二十丁許の間、左右の路傍は墓地にして貴賤道俗の石塔立錐の餘地無きまでに立ち並び、殊に高大なる舊藩諸侯の墓碑の如きは人目を驚かすべきものあり、其間を縫ひ、聽て御廟の前に至れば清流の上に架したる一橋あり、長さ四間四尺、幅五尺五寸、是れを御廟の橋と云ひ橋

板三十七枚、裏に金剛界三十七尊の稱名を書し、其構造は最も深義を寓すと云ふ、脚下の清流は本邦六の玉川の一たる高野の玉川にして、其水の清冷なること盛夏尙肌を刺すべし、南岸に大師の歌碑あり曰く。

わすれても汲みやしつらん旅人の

高野のおくの玉川のみづ

之れを渡らば既に奥の院御廟前なり、廟は三間四面の寶形造りにして南面し、廟前には滾々流るゝ玉川の清流あり、脊後に摩尼、揚柳、轉軸の三山を側壁の如く繞らして頗る幽閑清淨の境、傳え云ふ、承和元年九月開祖大師自ら此地を下して後長く定身をとめたる靈地なりと、御廟の前に燈籠堂あり中央に舍利塔を安んじ、正北に日輪大師を安置し其東西に幾多の常燈夜燈を備へしは之れ所謂萬燈にして中央にかゝぐる一大燈

のあるは世に貧女の一燈と稱ふる持經燈なり、當堂は初め大師の遺旨により眞然僧正經始して御廟の拜殿となし一に禮殿と稱せしが後、祈親上人誓願をこめて此處に石火を鑽り常燈とせしに初まり爾來千有餘年の間法燈長く傳へて今に絶ゆることなしと云ふ。

以上は山内の主なるものを述べしにといまるのみ、其他探らば遺蹟、奇勝、傳説等甚だ多きも、山内に至りて訊すべし、山内には案内者として別に無げれども寺坊に就きて頼めば相當のものをして特に應せしめらるべし。

山上にての宿泊は宿坊に頼むものにして宿坊は前記女人堂より二丁許り進みたる處に參詣人案内所あるを以て同所の指定を受くるが宜しからん宿坊の宿泊料は一定の額あるにあらず、各自の心任にして大低五十錢以

上なるべし、また山路堪へがたき婦人或は健足ならざる人は河根まで人車通じ、河根より先は駕籠によるをよしとす、賃金は左の如し。

人車賃 駕籠賃

橋本より學文路迄片道 三十錢 八十錢

學文路より河根迄同 三十五錢 八十錢

河根より神谷迄同 ナシ 八十錢

神谷より高野山迄同 ナシ 一圓廿錢

以上の如きを以て橋本より高野山迄の駕籠を賃せんとすれば三圓六十錢を要する譯なれども、河根まで人車の便により、同地より駕籠に乗れば二圓六十五錢にてよき譯なり。斯くて山上の巡拜見物を終り、歸路を高野口方面にとらんとすれば神谷

迄は往路と同じく、神谷より道を左に取りて峻坂を下ること二十一丁にして推出に至る、推出より丹生川の溪流を越えて下山の途に就けば溪流また道に沿ひ礪礪たる岩石に激して時ならぬ白雪を飛ばすあり、時には淀みて紺碧の綾を織るありて其風光頗る見るべく、特に真田幸村此山麓に閑居の時、水馬の練習をなしたりと云ふ真田が淵に至つては自ら足をこゝめて感慨無量なるを覺えん、聽て下れば九度山町にして是れより再び丹生川を左に越え、幾許もなくして慈尊院に達す。

慈尊院は弘仁年間、弘法大師の金剛峰寺を開きし時、此地を政所と定めて出納の事を司らしめられたれば山上の本院に對し之れを下院と稱せりと、後承和元年、其母公の讃州より訪ねこられしも、山内は結界の地なれば母公と雖も女人を迎へ入れることを得ず、よつて此所にとゞめ從者を侍

せしめ以て孝養を盡されしが、翌二年二月母公八十三歳を以て安寂し給ひしより、大師嘗て製作せし尊像と共に其靈體を此靈窟に安置し慈尊院と名くと、是れが爲めに女人高野の稱あり、此附近に近き善名院は大阪方の大軍師として有名なりし真田幸村の其父昌幸と共に閑居せし遺址にして、本堂に安置せる地藏尊は俗に真田地藏の名あり其閑居當時に掘鑿したりと云ふ十數町の抜空今尙存せり。

慈尊院より高野口驛までは一路、紀の川を渡らは直ちに至るべし、歸路高野山より推出までは駕籠推出より、高野口驛までは人車通ず、賃金は高野山推出間駕籠賃片道一圓五十錢推出より、高野口まで人車賃金二十五錢、慈尊院へ廻らば三十錢、高野山、高野口間通し駕籠賃は二圓十錢を普通とす。

右の往路歸路は強て右によるに及ばざれども兩道を盡さん爲めに假りに定めし處なれば是れを逆にするも又た一路を辿るも遊者の意に任すは勿論なり尙念の爲め兩道の里程を述べんに、橋本驛より高野山に至る實測四里十八丁、高野口より同三里十八丁なるを以て近路により高野口驛より往復すれば其延長七里、大阪を早朝に出立し、人車、駕籠の便によつて日返りに歸着するを得べしとするも、山路は意外に抄取らず加ふるに山内の巡拜に尠くも四時間を要すを以て登山者は一泊の豫定を以てする方宜しかるべし、宿泊は前記山上の宿坊にするも可、山腹の神谷にするも可なり、神谷には藝妓はなくも酌婦あり絃歌の音も聞くべし、旅館は前に述べたる花屋の外、花市、花本等名あり、一泊四十錢以上、特等一圓五十錢、中食は二十五錢以上五十錢。

—(紀の川の鮎)—



紀の川の鮎

高野登山の歸途、初夏より初秋に至る候にして若し時日の許すあらば紀の川の鮎狩を一遊するも面白からん、勿論靈山參詣の歸途に殺生は勿體なしとすれば行を別にするも一遊の値あり、尤も單に紀の川と云へば甚だ茫漠たれども、鮎漁は橋本以東五條附近を以てよしとす、乗車賃金は和歌山線によれば湊町五條間七十七錢、同二見間は七十九錢、高野電車なら

ば橋本經由二見迄八十三錢、同五條まで八十五錢にして高野電車は時間に於て早きも賃率は高き譯なり。

紀の川の鮎は吉野川の夫れと同じく香味共に頗る可なるは古來推賞さるゝ處、二見驛には鮎狩案内所あり、五條には旅館に依囑して遊船を艤せしむべく、遊船其他の費用に就て二見にて定めたるものは遊船五人以下一艘二圓、五人以上十人迄は一人毎に五十錢増、十人以上は同三十五錢増、漁船漁夫五人付にて一艘四圓三

紀の川の鮎



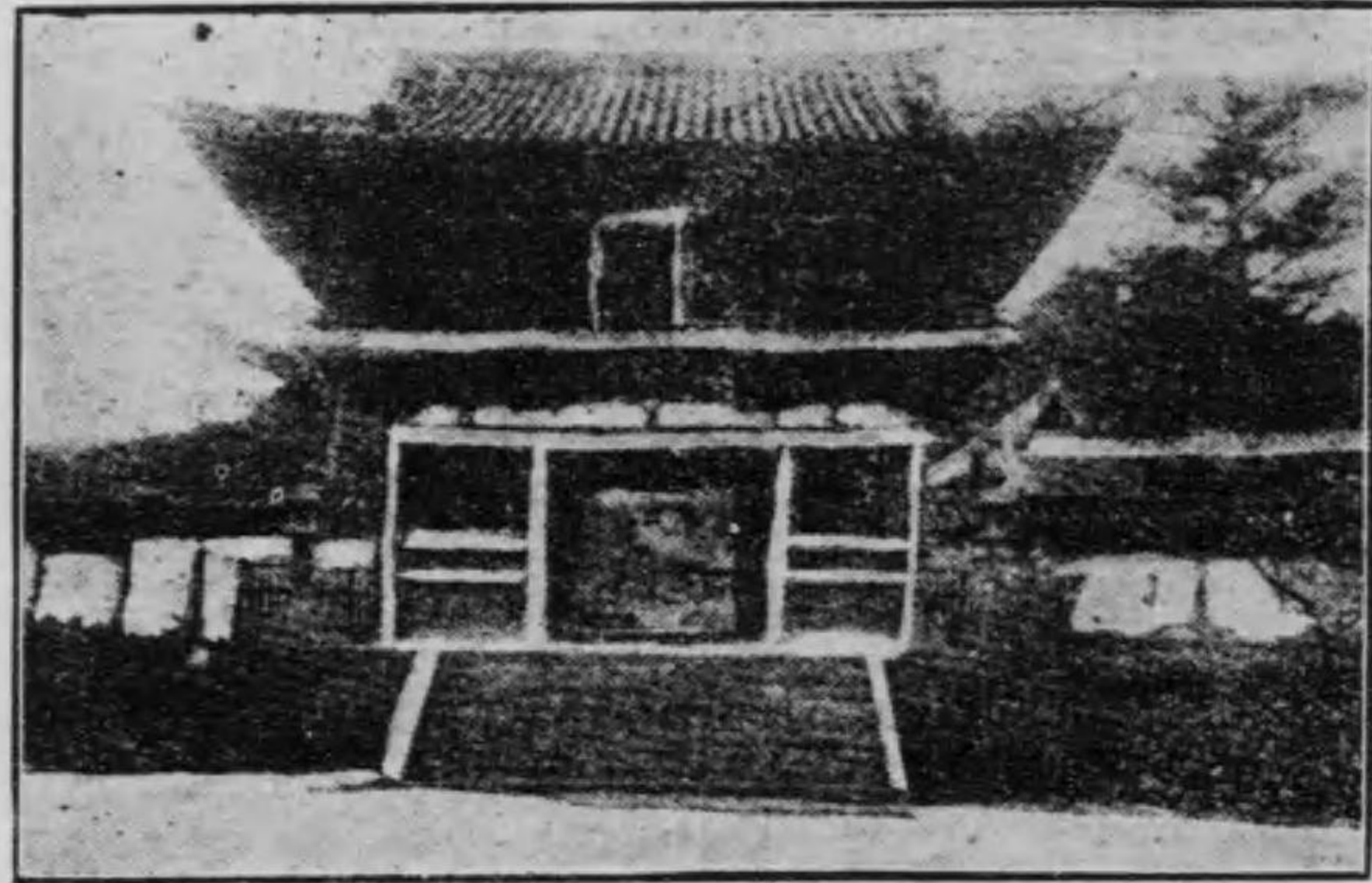
十錢、折詰辨當上等七十錢、中等五十錢、並等三十五錢、會席一人前上一等一圓、中等七十錢、並等五十錢、麥酒は一本四十五錢、酒一合瓶詰十錢、橋本に於ける物價も之れと殆んど變らず。五條の一角、榮山寺附近の釣魚また甚だ面白く夏時綠蔭に綸を垂れて一日の清遊を試るもよし。

橋本發湊町行終列車午後八時前後湊町着十一時前後
同 和歌山市行終列車午後六時半前後、和歌山市着九時前
高野鐵道汐見橋(大阪)行橋本發終電車八時過、汐見橋着十時前後

橋本まで

長野は高野電車沿線にして長野遊園地は河南に於ける唯一の遊園地なり
途次探るべき沿線の名蹟としては阿部野驛より近く別格官幣社阿部野神
社あり、延元三年足利の軍の爲めに此地に討死を遂げし南朝の忠臣北畠
顯家を祀る、社域廣濶にして壯麗なる社殿は車窓より望むを得べし、住
吉神社は住吉驛の西方三丁にあれども前に述べたれば茲には詳しく云は
ず、我孫子觀音は我孫子驛の東三丁にあり、吾彦山山中坊不動院と稱へ
本尊とする一寸八分の聖觀世音は泉州水間寺の瀧あり出現し、靈驗顯著
なりとて參詣者四時絶えず、殊に毎年の初午及び立春當日と其前後三日
間は厄除祈禱の法會を營むため非常に賑はし、堺東驛は堺市の東邊にあ

り、方違神社、反正天皇御陵、天王の森等は當驛に下車して至るべし、
方違神社は驛の附近、泉北郡向井村にありて神功皇后を祀り、家宅を轉
するに厄除の護符を受くるもの多く、殊に節分の日は參詣者夥しくし
て頗る雑踏を極め、天王の森は方違神社の南方にありて中に東原社を祀
り、境内見事なる數種の櫻樹あるを以て春時杖を曳くもの甚だ多し、八
幡驛に近く百舌八幡あり、欽明天皇の御宇造營せし處にして應神天皇、
神功皇后の二神を祀り、社域廣濶にして極めて森嚴なり、我國水利工事
の濫觴たる狭山の池は狭山驛の西方五丁、厄除大師の稱ある與通大師は
瀧谷驛の西六丁、天野村字小田にあり、眞言宗にして盛松寺と云ひ、厄
除弘法大師の尊像を安置す、境内に新四國八十八ヶ所の靈場を設け、附
近の風光甚だ見るべし、長野遊園地は長野驛の東、石川を隔てし小丘の



天野山金剛寺門

二萬一千坪に餘り附近松茸の産地として
 秋時遊ぶもの多し、光瀧寺は金剛寺の西
 南方、高向村字瀧畑にあり、行滿上人の
 草創する處、不動尊を本尊とし世に炭焼
 不動として傳えらる、地は山間にありて
 極めて閑寂、山中瀑布多く光瀧寺の四十
 八瀧と稱え附近楓樹夥しければ秋時杖を
 拄ぐべし、檜尾山施行寺は是又驛の西南
 方にして道程約二里、瀧畑村より登るべ
 し、地は河泉の國境をなす檜尾山の山中
 にあり、行滿上人の開基にかゝり後弘法

上にあり、地域約三萬坪、諸越長者の邸地にして近年高野鐵道會社にて
 諸種の設備を加へ以て遊園となす、地は甚だ幽邃にして交通の便よく、
 清流に望んで清洒なる料理旅館の建ちしもの二三あり、春時遊ぶべく夏
 時涼むべく秋月また甚だ佳にして雪景頗る見るべければ四季通じての遊
 樂地として近畿稀に見るの勝地、殊に暮夜の杜鵑虫聲を以て、最も名あ
 り、觀心寺、河合寺、千早登山は當驛よりすべしと雖も前に述べたれば
 略す、天野山金剛寺、福王山光瀧寺、檜尾山施行寺等又當驛よりすべし
 金剛寺は驛を西南に距る約一里、天野村の天野山にあり、山路を越ゆべ
 しと雖も人車の便あり、人車賃金片道三十五錢、寺は眞言宗にして僧行
 基の開創にかゝり正平八年後村上天皇の行在所となし給ひしことあり爾
 來幾多の變遷を重ねて今日に至りしが寺寶として南朝の遺物多く、境域

大師もまた留錫せしことありと云ふ、西國第四番の靈場にして本堂には法海上人作の彌勒佛を本尊に、同く千手觀音を脇士として安置し境内に不動堂、大師堂、經藏等の外楨尾明神の祠あり、附近頗る幽邃にして閑澗、殊に滿願寺の瀧、雫水の瀧等あれば夏時避暑をかねて參詣すべし、錦溪温泉は三日市驛の附近にあり、庭内泉石の配置面白く楓樹特に見るべし、千早城址は此の次驛千早口より至るを便とす、途次に紅葉の名所延命寺あり、延命寺は是又た前に述べたれば茲には云はず。是より以南の沿線、天見、紀見峠、高野辻の諸驛あれど重なる名蹟は補遺に述ぶ。

—(北)—

北 起點大阪市より北方に屬する方面なり、大阪以東の東海道線の如きは「東」の部とすべきが如きも、「東」の部の當初に述べし如く淀川を東及び北の區劃線とせしを以て同線は此部に入れたり、即ち「北」の部に收めたる鐵道線を擧ぐれば左の如し。

- 東海道線 大阪驛より以東京都を経て湖北を主したり
- 山陰線 其初發驛たる京都驛より龜岡驛迄、龜岡以北に至る時間の餘裕はありと雖も特に記すべき名蹟なし
- 福知山線 神崎驛より福知山に至る區間
- 有馬輕便線 三田驛より有馬町に至る
- 阪神急行電車 梅田停留場より石橋を経て一に箕面に向ひ一は寶塚に至る

能勢電鐵線 能勢口より一の鳥居停留場に至る

嵐山電氣鐵道線 四條より嵐山停留場に至る

京津電氣軌道線 三條大橋より札の辻停留場に至る

大津電氣鐵道線 濱大津より石山寺停留場に至る

近江鐵道線 彦根驛より貴生川驛に至る

湖南鐵道線 八日市驛より八幡驛に至る

以上各線による外、聊か遠隔の嫌なきにあらざれども東海道線に沿ひし養老鐵道、同く岐阜長良の鶺鴒、舞鶴線より至るべき天の橋立等は著名なる勝區なれば特に述ぶることよし、外に琵琶湖中の大湖汽船會社航路は是又た逸すべからざるものなれば掲げたり。

京都まで

大阪より京都に至る區間に吹田、茨木、高槻、山崎、向日町の五驛あり何れも短距離なるを以て途中下車規定により下車する場合は乗車券の前途無効となるべし、故に出遊の際には豫め行程を定むるか或は乗車券の買次ぎを行はざるべからず、尙急行列車及び直通列車は以上の諸驛に殆んど停車せず、豫め時間表に注意。

吹田驛は大阪驛より第一次の驛にして大日本麥酒會社釀造場は驛の北方に近く、建長五年、後嵯峨帝の「きて見れば千代も經ぬべし高濱の松にむれゐる鶴の羽衣」と詠じ給ひし高濱神社は是又同驛より近き吹田村字六地藏にあり、創立の年代詳ならざれども有数の古祠なりと云ふ、瑞光寺は驛の東方約三十丁、大道村字北大道にあり、天龍山と號し臨濟宗に

して妙心寺派に屬す、境内の鯨橋は有名なるものにして寶曆六年紀州熊野より寄贈せし鯨骨にて造りしものとか、高欄橋板共全部鯨骨を以て成り只だ一部の石材を使せしは寛政年間腐朽せし箇所ありしたため取換えしなりと云ふ、橋態甚だ奇にして頗る風致を添ふ、同く驛より西北約一里中島村字江口に歌塚あり、昔西行法師、此地の遊女妙なるものと贈答せる和歌を刻みしものにて歌は即ち二首あり、一は西行の詠める「世の中をいとふまでこそかたからめ、かりのやとりを惜む君かな」また妙の之れに答へしは「世をいとふ人としきけばかりの宿に心とむなと思ふばかりぞ」因みに、江口は古往遊女のありし土地にて世に江口の君と云ひしも此地なり、河田の桃林は驛の西方約一里、千里村字佐井寺の河田山にあり、桃樹實に數萬を以て數へ花時に至れば紅彩遠く連り頗る壯觀なり

俗に之れを吹田の桃林とも云へり、大阪より當驛まで哩程四哩八、乗車賃金九錢。

茨木驛に至れば西國二十二番の靈場、總持寺は北方約二十五丁、三島村字總持寺にあり、補陀落山と號し古義眞言宗の名刹にして後小松天皇の宸翰を初め寺寶頗る夥しく、鎌足塚は同西北約三十丁、安威村字將軍山の中腹にあり、大和多武峰の談山神社は公の長子定慧、唐土より歸朝の後、父の遺命を奉じて一旦此地に埋めたりし公の遺骸を改葬せしものなりと云ふ、塚の側に大職官神社あり、鎌足公及び其子淡海、不比等を祀る、同東方約二十五丁、三箇牧村字西面には本邦六の玉川の一に數へられし玉川の名蹟あり、今は僅かに一條の細流をこゝめしのみ、此處より尙東すること數丁、同所字三島江には式内の古社三島江神社あり、大物

主神を祀り境域甚だ神寂ひて見ゆ、西國二十三番靈場勝尾寺は當驛より約三里なれども箕面線によるを便とすれば「箕面遊び」の項に述べたり、大阪より當驛まで哩程九哩二、乗車賃金十七錢。

高槻町は永井氏の舊城下たりし處にして山崎街道と茨木街道の相岐る、要路なり、市況甚だ殷賑を極め今は第四師團工兵第四大隊の兵營を置く高槻驛は其北方三丁の郊外にありて驛より高槻城址まで南方約六丁、當年の面影なくたゞ其壘壁と塹濠を存するに過ぎずと雖も城内に式内の古社野見神社あり、午頭天王を祀り、其末社の若宮には永井氏祖先の靈を鎮むと、天臺宗の名刹、金龍寺は驛より東方約一里、磐手村字戒合の山腹にあり、延暦年間參詣阿部是雄の草創にかゝり念佛上人を開祖とし安満寺と云ひしが、中興の祖、僧千觀の頃、本堂の西南方にある金龍の

池より金龍昇天せしことありしより今の名に改むと、後方の山を金龍山と稱え西南方の眺矚甚だよく大阪市街は一眸の下にあり、眼界遠く茅海に馳せて淡路島の翠岱に對するを得べし、因みに高槻驛の北方に近き天神山附近より此地に亘る一帯は松茸の名所とて秋時遊ぶもの頗る多し。

大阪より高槻驛まで哩程十三哩三、乗車賃金二十三錢。

高槻驛を發したる列車、次驛山崎驛に近くに從ひ北方に近く一堆の丘陵を望むべし、之れ天正の昔、秀吉が逆臣明智光秀を討たんとして先ず占領に力を致したる天王山なり、山崎驛よりは約八丁にして山麓まで至るべし、山は高さ二百七十米突、山上に勤王の志士眞木和泉守等殉難の碑を建て、附近の眺望東は京都、伏見の市街を近く窺ひ西は茅海、南は淀川の銀帶を眼下に控えて攝河の平野を一眸に收め甚だ秀麗を極む、當時

秀吉の嘗て本陣とせしと云ふ寶寺は其西方の山腹に、同く利休をして茶を點せしめんと云ふ妙喜庵は山麓にあり、寺は眞言宗にして寶積寺と云ひ、聖武天皇の勅願により行基上人の開基する處、院は禪宗にして佛殿の傍に利休の茶室今尙存じ、庭内に有名なる袖摺松あり、楠公父子の訣別を以て史上に名高き櫻井の驛は當驛より西方約二十丁、島本村字櫻井にあり、その遺址は鐵道線路の北方にありて乃木將軍の筆になる碑石を建つ、官幣中社水無瀬宮は驛の南方約十丁、櫻井よりは東方約十二三丁歸途廻るも可なり、宮は後鳥羽、土御門、順徳三帝の神靈を奉祀する處社務所の一室は往時後水尾帝の屢々行幸あらせられし茶室なりと、世に柳谷觀音と稱へて有名なる揚谷寺は驛より西北約一里、海印寺村字淨土谷にあり、白河天皇の御宇、永觀上人の開基にかゝり千手親音を本尊と

して安置す、本堂の側に揚柳の瀧と名くる飛瀑あり、眼疾ある者觀世音に祈願をこめ此の瀑水を眼に注げば癒ゆべしとて參籠するもの常に夥しく毎月十七日の縁日には參詣するもの殊に多し、長岡天満宮は同く東方約一里、神足郡山開田にあり、昌泰四年、菅公筑紫に左遷の途次此地を過ぎしに寛平法皇の侍臣にて祐房と云ふ人、公に別れを惜むの餘り其像を描寫せしが、後之れを祀りしは當社なりと境内に池あり池畔に梅、躑躅、楓樹多く

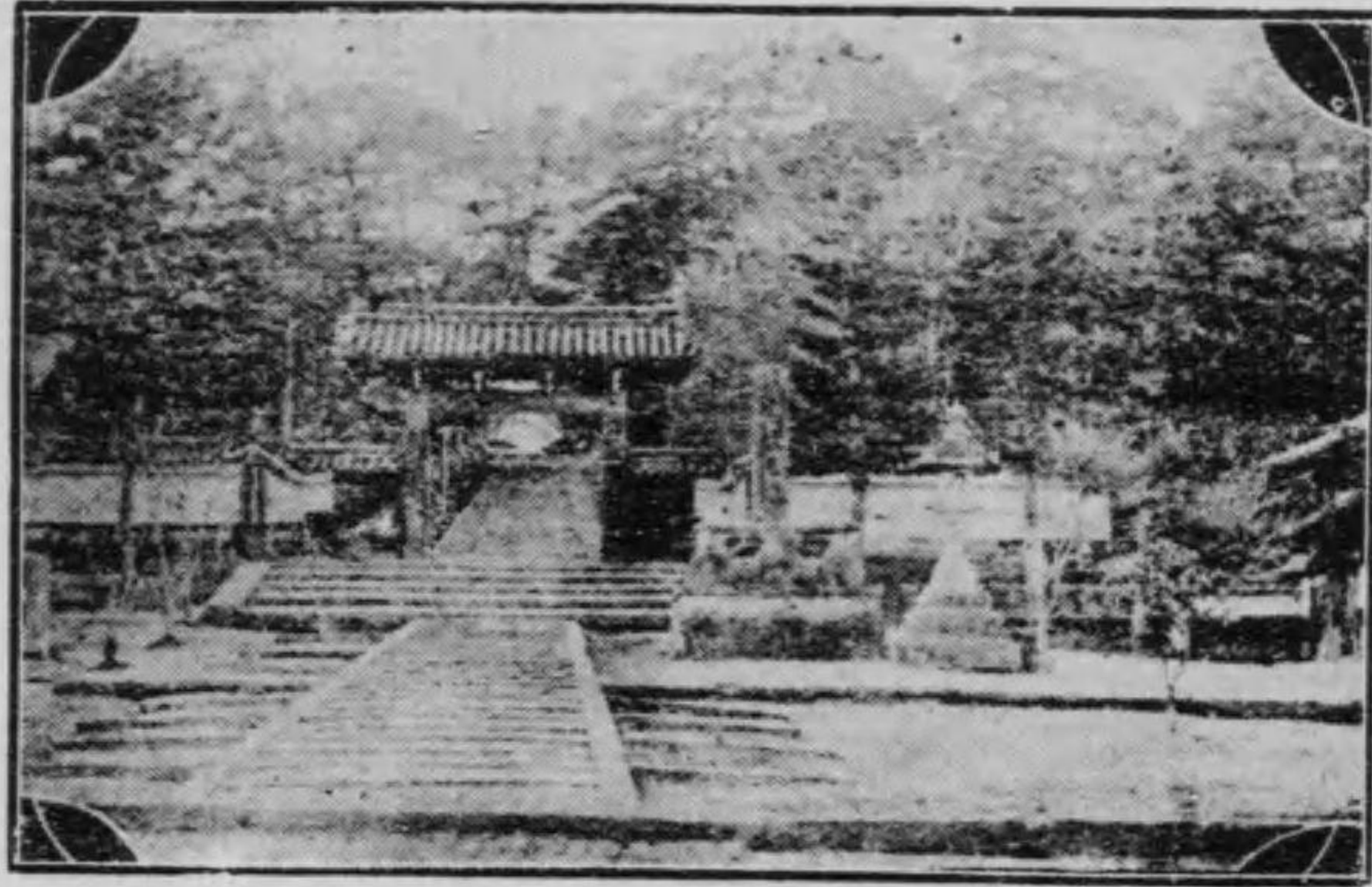
宮 瀧 天 岡 長



四邊の風光甚だ佳なり、大阪より山崎驛まで哩程十八哩、乗車賃金三十

一錢。

長岡の天満宮は山崎驛の次驛、向日町驛よりも至るべし道程約一里餘、山崎よりは稍遠きも馬車の便あり馬車賃十二錢、天満宮の東方約二十丁新神足村字勝龍寺に山崎合戦の以前、明智光秀の暫らく陣せしと云ふ勝龍寺の城址あり、城は文明年間畠山義就の築く處と云ふ、今尙儘かに殘壘を殘せりまた天満宮より向日町驛に歸着の途次、道を北にして乙訓村字今里に至れば聖徳太子の建立にかゝる乙訓寺あり、弘法大師之れが中興となり、太子自作の十一面觀世音及び大師自作の合體大師を安んじ、國寶に編入されたる毘沙門天の立像を存す、境内の菩提樹は大師の手植えになりしものなりと云ふ、又た是れより更らに西すること約二十丁、



粟生に至れば報國山光明寺あり、驛より光明寺まで西南約一里、一に念佛三味院と號し淨土宗西山派の總本山とす、建久四年熊谷蓮生法師の創建にかゝり本尊の阿彌陀如來は惠心僧都の作にして法然上人之れが入佛供養式を行へりと云ふ、堂宇の結構何れも妙を盡し、地は高燥に境内廣く楓樹夥しければ紅葉の名所として名高し、其他驛の東方約十四丁、向日町字鶏冠井には桓武天皇の奈良より都を遷し給ひし靈蹟、長岡の舊都あり、同西

方約一里半、大原平野には平安城の鎮護と定められし官幣大社大原野神社、其西方には俗に花の寺と稱ふる勝持寺、同村小塩の山中には西山御所の稱ある芳峰寺等あり。

わきてなほもみぢの色やふかゝらん

慈道法親王

みやこの西の秋の山里

「東」の部に記したる男山八幡宮は山崎驛の南方、淀川を隔て、對岸にあり、往路を東海道線によりて山崎方面まで來り歸路を對岸の京阪電車によるも宜しからん。

京都めぐり

京都は桓武天皇の遷都あらせられし以來明治の初年に至る一千餘年の帝都と定められし地とて一山一水の風物悉く史蹟を偲ばしめざるは無く加ふるに山紫水明の境、見るところ皆嘆賞に値し、殊に我國美術の粹を收めたるあり、宗教はまた其淵叢を以て誇る處なれば之れを詳細に探らんには俺留數日尙且つ日子の足らざるを啣つの感あるべし、是を一日の旅路を以て到底其凡てを盡すべきにあらざれば、茲には其主なるものを擧げ、取捨は遊者の意に任さんのみ。

大阪より京都に至る鐵路は二あり、一は東海道本線、一は「東」の部に述べたる京阪電車とす、東海道本線によれば哩程二十六哩八、乗車賃金は

三等片道五十五錢、二等片道九十八錢、途中下車二回迄隨意、京阪電車は京都市内に入りて鹽小路、七條、五條、四條、三條の五停留場を置き天満橋(大阪)より三條に至る片道賃金五十一錢、往復九十三錢、途中下車は指定の停留場に限る。

東西本願寺を初め鴨川以西の地を見物するには汽車によるべく東山方面の見物は京阪電車によるは便なるべきか。

東海道線により吹田、茨木、高槻、向日町の諸驛を経たる列車、京都驛に近くに従ひ、右方の車窓より近く五重の塔を望むは眞言宗の總本山にして桓武天皇の御造營にかゝる東寺の塔とす、東寺は教王護國寺と號し天皇此地に御遷都の御時、朱雀門の東西に兩寺を御建立あらせられ、東方なるを東寺、西方なるを西寺と名けられしが、嵯峨天皇の弘仁十四年

西寺を奈良の守敏に、東寺を空海に賜ひしが、空海に賜はりしもの即ち當寺とす、寺域三萬坪に餘り、寺内に金堂、講堂、觀音堂、大師堂、寶物館、寶庫、方丈等ありて何れも其結構壯重を極め、中にも金堂は豊臣秀頼の再建せしところ、また高塔は寛永年間徳川家光將軍の造營になり高さ三十六間、五層の樓閣は巍然として聳え、世に東寺の塔とて甚だ有名なり、又古來渡邊綱の傳説と共に人口に膾炙する羅生門は此の西方三丁にありしと云へど今は其礎石すら認むることを得ず、京都驛より東寺までは西南方數丁にして至るを得べし。

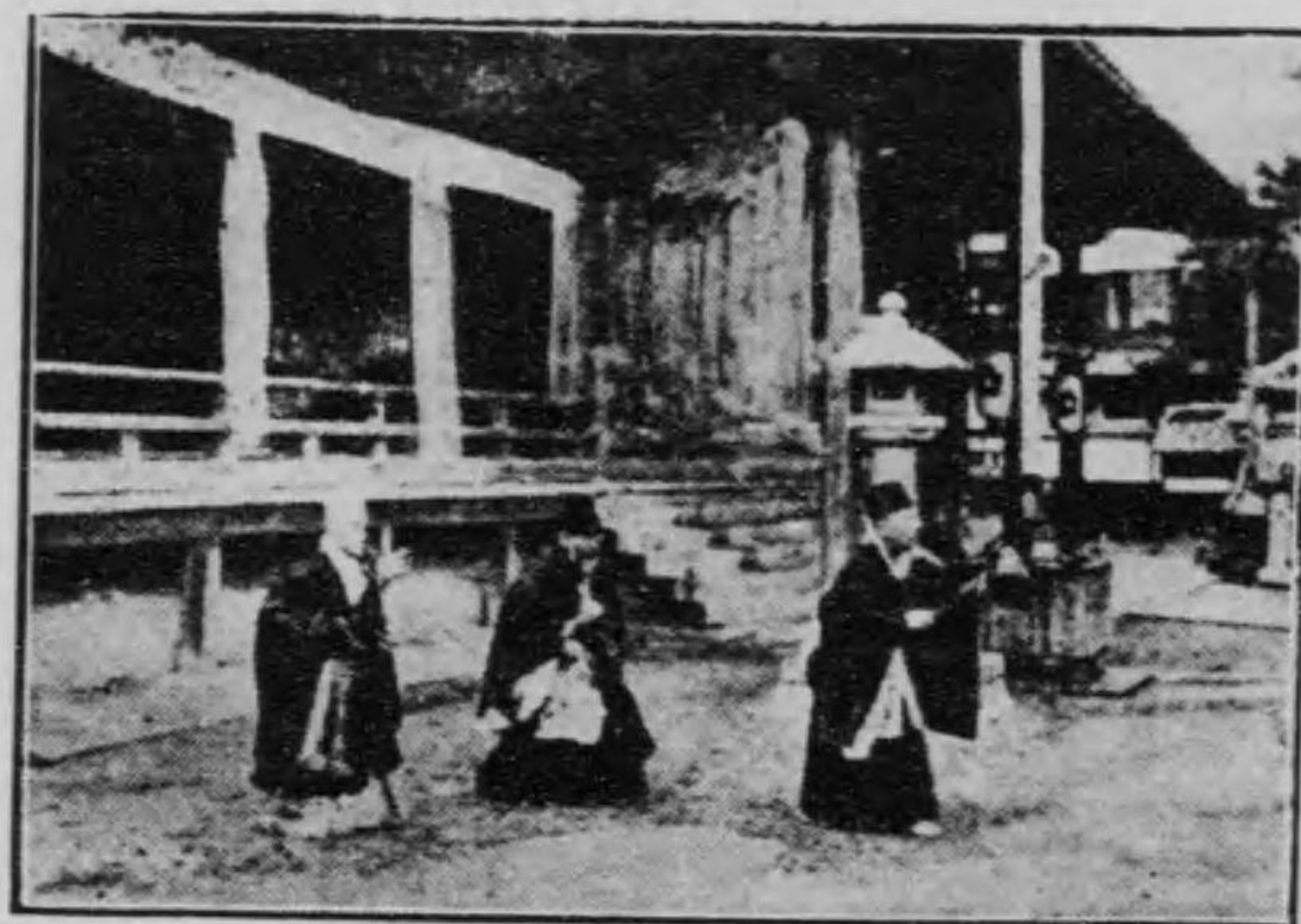
東寺を右に送りたる汽車は聽て京都驛に至つて止る、驛は京都市の南端にありて一に七條停車場とも云ふ、現今の驛舎は大正三年の改築にかゝり構内の規模宏大にして壯麗なる屋舎の構造は最新の形式によりたるこ

とて其比は東京驛を除きて全國他に見
ざる處、東西の兩本願寺は驛の北方に近
く驛前より共に麓を望むべし、右手なる
は東本願寺にして驛より三丁、烏丸通七
條北にあり、慶長七年、顯如上人の子、
教如上人、徳川家康の命を受けて創建し
爾來再三祝融の災に罹りたりと云へども
其宏壯なる結構は舊態に則りて改めず、
現今の堂宇は明治二十五年五月に工を起
し同二十八年四月に至つて竣成を告げし
ものにて境域甚だ廣く地坪二萬一千九百

東本願寺



竝に餘り本堂は東西二十一間、南北二十六間五尺を算し、眞宗大谷派の
大本山として信者の喝仰措く能はざるの名刹、其別莊たる枳殻殿は東方
二丁にあり、一に東殿また涉成園とも稱え庭内廣くして林泉の美都下に
冠たり、西本願寺は驛の西北約七丁、東本願寺より約五丁にあり、是又
規模の宏大なること東本願寺に譲らず、本堂の宏大なる境域の廣きは論
する迄も無く、壯麗なる建造物の麓を並べし内にも飛雲閣の如きは豊臣
太閤一代の贅を盡したる聚樂邸の一部を移したるものとて轉た人目を驚
かすに餘るべく今は特別保護建造物に編入されたり、興正寺は其南方、
本國寺は同く北方に、古來大夫の名と共に喧傳せらるゝ島原遊廓は同く
西方數丁、山陰線丹波口驛は島原の西方にあり、同線の東に沿ひたる千
本通りを北すること數丁に壬生寺あり嵐山電鐵の起點、四條停留場は此



の東方三丁、空也念佛踊を以て世に知られたる空也堂は四條停留場の東北方四丁蛸薬師堀川東にあり、是れより堀川に沿ひ、北して御池通りを西に辿れば神泉苑に至る、神泉苑は桓武天皇以來、歴朝御遊覧の林苑なりし處、二條の離宮は其北に連り、其西方に出世稻荷あり、聚樂邸址は其北方監獄署の北に、是れより電車線路に沿ひ中立賣通りより左に辿れば數丁にして北野神社々前に出づ、社は官幣中社にして菅原道真公を祀る處、社殿壯

重にして境域廣く、梅樹數百株枝を連ねて花時馥郁たる芳香を遠く傳ふ社前に豊公茶の湯の舊地、及び東向觀音あり、官幣大社にして櫻樹、燕子花、花菖蒲、萩等の名所たる平野神社は其西北方に近く、足利義滿の華奢を誇りし金閣寺は同く西方北數丁、衣笠村にあり、寺は初め西園寺家の山莊なりしを足利義滿將軍請ひうけて燕居の所となし、其死後其子義持父の遺命をうげ夢想禪師を請じて禪林となし鹿苑寺と號すと、境内の林泉は義滿の命により相阿彌の作る處、數奇を凝して頗る幽邃閑雅を極め、園の中央なる鏡湖池に臨んで建ちたる三層の樓閣は所謂金閣にして寺名を金閣寺と稱するは之れに起因す、層ごとに名ありて請はゞ觀覽を許さるべし、即ち其下層を法水院、中層を潮音堂、上層を究竟頂と稱え、上層の天井は方三間の一枚の檜皮を以て張り、四邊に覆ひたる金箔

は今尙燦然たり、更らに閣を出で往路に沿ふて池中の景を探らば所謂九山八景の勝あり、八海石、夜泊石、赤松石、畠山石等の奇巖累々として散在し、龍門瀑、銀河泉の清冽あり、篆徑を登つて白蛇池の池畔に出づれば南天の床柱、萩の違棚を以て入口に喰灸する夕佳亭の茶室に至るべし、金閣寺の東北約八丁、東紫竹大門に今宮神社あり、大徳寺は其東南に近し、寺は臨濟派の大本山にして正中元年大燈國師妙超の開基にかり一休和尚の再興する處、龍寶山と號し、此附近一圓の地を紫野と云ふより俗に紫野の大徳寺と云ふ、境内老樹立て籠りて堂宇を掩ひ幽邃の状云ふべからず、方丈の前庭は小堀遠州の作になり、遠州の建立せし孤蓬庵、一休禪師の庵室たりし眞珠庵は今尙存し、寺寶には徳川家康が加藤清正に毒饅頭を勧めし時、茶を點せしと云ふ茶碗の外其他諸種の遺物を

藏し寺内には主君織田信長の爲め秀吉の建立せし高さ五尺六寸餘の五輪の石塔ある外、細川忠興、蒲生氏郷、小早川隆景、片桐且元、豊臣秀長千利休、小堀遠州等の墳墓あり、建勳神社は大徳寺の南方、船岡山の東麓にありて織田信長の靈を祀る、別格官幣社にして境域廣しと云ふにはあらざるも春後の山上は眺囑よく梅の名所として其名高し、是れより社前の街路を東に取り、大宮通りより南すれば僧日象の開基にかゝる妙蓮寺あり、同日親の開基になる本法寺は其東に、日蓮宗一致派の本山たる妙顯寺は又其東に、妙覺寺は妙顯寺の北にあり、何れも日蓮宗の名刹とす、上御靈神社に詣でんには是れより東すべく村雲御所は大宮通りを南すべし、上御靈神社は初め早良親王、井上内親王其他二座の神靈を祀りしが後橘逸勢、文屋宮日鷹外二座の靈を加へて八座となせり、傳え云ふ

以上の八座は何れも罪なくして墳死を遂げし神靈なるを以て怨魂の祟ら
 んを憂ひて社殿を營むに至りしと、又村雲御所は豊公の姉にして秀次の
 母なる日秀尼の開基にかゝり瑞龍院と稱えて後陽成天皇の勅願所となり
 比丘尼宮とせられて薙髮せる攝家息女の入室さるゝ處とす。
 下加茂神社は上御靈神社北方の街路なる鞍馬口を數丁東に向へば至るべ
 し、社は玉依姬及び、鴨建角見命を祀り官幣大社にして欽明天皇の御宇
 に草創し、桓武天皇の遷都以來山城國の土産神と定められ、爾來歷朝の
 崇敬淺からず屢々行事せられし御事あり、地は甚だ幽閑にして社殿は頗
 る壯重を極め、社前一帶の森林は糺の森と呼び杜鵑の名所として古來詩
 歌に詠せられしもの多く、社の例祭は毎年五月中旬に執行し、葵祭と稱
 え古雅にして優美なる渡御の式を以て上加茂神社に神幸す、上加茂神社

は是れより西北方三十丁、上鴨村にあり
 て別雷神を祀り是又た官幣大社たり、現
 今の社殿は寛永五年の造建にかゝる處、
 境域森嚴にして御手洗川の清流は社前を
 繞り、多くの櫻樹は老樹の影に雜りて花
 時の風光云ふべからず、是れより北方に
 は實相院、鞍馬寺、貴船神社あり、また
 下加茂神社より東すれば詩仙堂、百萬遍
 銀閣寺を初め次第に南して東山附近の名
 蹟を探るべしと雖も、そは項を別にした
 れば是れより再び上御靈神社に戻り、市

社神茂加上



の中央部を漸次南下せん。

禪宗五山の第二に位する相國寺は上御靈神社の南方にあり、萬年山相國承天禪寺と號し後小松天皇の御宇、足利義滿勅を奉じて建立し夢想國師を開基とせし處、當時は輪奐の美を極めしと云へど應仁の兵燹に罹り、後、豊臣秀頼によつて再建され殆んど舊態に復せしが天明八年再び祝融の爲め烏有に歸し今は法堂を残すのみなれども寺域は頗る廣く、樹木繁茂して風致に富み、轉た昔時の壯大なりしを偲ぶに足るべし。

京都御所は相國寺の南方三丁、村雲御所より東方六丁、京都驛より北三十五丁、市内電車の便によるべし、電車賃金七錢。

御所は明治二年、車駕東遷の御事あり、帝都を東京に定められしより別宮となりしも森嚴なる皇宮は大號と共に存し、即位の御大典、大嘗會の



京 都 御 所

御盛儀は永世茲に行はせらる、之れ畏くも桓武天皇の遺範を聿修あらせらる、明治大帝の聖慮に出でさせられし處にて、大正四年の秋、今上陛下御即位の御大禮を當御所にて擧げさせられしは洵に京都市の光榮と云ふべし。
内裏の御事は元より庶民の窺ひ知るべき處にあらざるも、舊皇居は御苑の中央にありて四面に石垣を繞らし、南面には建禮門あり、之れ正門にして別に建春門、宜秋門、朔平門等は東西北の三面にあり

内廊にまた三門を有し中央を承明門、東を日華門、西を月華門と稱へ、柴宸殿、清涼殿、宣陽殿等其他無數の宮殿、此裡に包まると承はれど九重の雲深くして拜すべくもあらず、只だ遙かに神々しき葦の二つ三つ外より洩れ伺ふのみ。

御苑は御所の四周、清淨なる地域にして東は寺町通より西は烏丸に出で南は丸太町より北は今出川に至り、御所をこめたる面積實に二十五萬坪に及び、四面繞らすに石垣を以てし、昔は親王家、攝家の邸弟たりしも明治の遷都と共に全く廢址して、芝草、花樹を植え、廣衢を通じて御苑となせり。

仙洞御所は御所の東南方なる御苑内の一角にあり、古往は上皇の震居と定められし處、今は宮殿を存せずと雖も泉石の配置妙を盡し幽雅閑寂を

極む、大宮御所は其北に、桂宮は御所の北方にあり、明治大帝御降誕の靈址にして御産湯とせられし祐の井は其東、舊中山家の邸址にあり、其他御苑内に久邇宮御邸、白雲神社、宗像神社、車返櫻、京都博覽會等あり、御苑を南に出で、東すれば寺町通りの角に下御靈神社あり、上御靈神社と同じく八座の神靈を祀る處、西國十九番の靈場革堂は其南に接し梨本神社、芦山寺、淨華院等は北方五丁にあり。

革堂より南方三丁に日蓮宗妙滿寺派の本山たる、妙滿寺其南に織田信長の最期と共に世に聞えたる本能寺あり、尤も信長の光秀に弑殺されし當時は六角の南、油小路の東方にありしも、後此處に遷すと、寺は法華八品派の本山にして寺内に織田信長の墓あり、其南隣、天性寺の南方を東西に通ずる街路は三條通りにして、三條通を西すること數丁、烏丸通を

南すれば聖徳太子の開基にかゝる六角堂あり、又天性寺の南三條通りより四條通りに至る南北の街路を一筋東すれば新京極と稱え、市内第一の熱鬧地にして劇場、活動寫眞常設館、寄席、見世物小屋等軒を並べ、其般賑なること大阪の千日前と伯仲するの觀あり、附近誓願寺、蛸薬師、安養寺、錦天神等賽すべし。

四條通りは新京極の南方、東西に通ずる廣街にして諸種の商店櫛比し、大阪の心齋橋筋に比すべき京都市内繁華の中心點たり、其東端に四條大橋あり、橋は明治七年の架設にかゝり木造の古雅なるものなりしも、近年市内電車の布設と共に巨金を投じて鐵骨とせしものにて甚だ壯麗なり京都名所の一と數へらるゝ四條積の涼みは此の橋下より三條大橋附近に至る一帶の河原にして東岸は祇園の花街に接し、西には先斗町の狹斜あ

り、黄昏此地に歩を移せば紅燈花と映する鴨川の清流裾を流して涼風一味巳に念頭に盛夏を覺えず「川風や薄衣きたる夕涼み」をそゝろに思ひ浮ふべし。

「蒲團きて寝たる姿や東山」は四條橋上より近く東方に其一半を望むべし、南は稻荷山より北は如意嶽に至る所謂鴨東三十六峰にして山姿温容洵に蒲團着て寝たる姿の句に脊かす、その半腹より山麓にかけて世に聞えたる勝地多く俚謠「京の四季」に之れが粹を抜いて云ふ。

春は花、いざ見にこんせ東山、色香あらそう夜櫻や、うかれくて粹も無粹も物がたい、二本さしてもやはらかふ、祇園豆腐の二軒茶屋、みそぎぞ夏は打ちつれて河原につどふ夕涼み、眞葛が原こそよくと、秋色増す華頂山、時雨をいとふ唐傘の、濡れて紅葉の長樂寺、思ひぞ積る圓山に、けさも來て見る雪見酒、云々

河原につどふ夕涼みとは四條河原の涼みなり、四條大橋の西詰には先斗

町の遊廓あり、東は祇園の花街にして八阪神社は其東端に、社内を抜けて東に出づれば既に東山の一端、圓山公園なり、色香争ふ夜櫻は其東邊にある一幹にして千條の枝は四方に垂れ、花時の眺め云ふべからず、殊に夕陽漸く没する頃より樹下に篝を焚き、火光花に映するの状頗る幽艶を極め春宵一刻價千金の情緒遺憾なく掬するを得、眞葛が原は此附近一帶の地、華頂山は其北方の名刹、智恩院の山號なり、智恩院は淨土宗鎮西派の總本山にして法然上人の開基にかゝり華頂山大谷寺と稱す、現今の堂宇は寛永十年徳川家光將軍の建造する處、壯大なる本堂を控えし後に千疊敷と稱ふる衆會堂あり、此處の廻廊は俗に鶯張と云ひ之れを歩むごとに奇音を發し左甚五郎の作なりと云、衆會堂に隣して宏壯なる方丈あり、方丈には上中下段、鶴、鷺、梅、菊、柳等の各間相連り、其襖に

畫きし花鳥は何れも狩野派諸大家の筆になりしものとて等しく世人の推賞措く能はざる處、堂前より東南に歩みを進め、石階を辿れば鐘樓あり懸りし巨鐘は寛永年間雄譽靈巖上人の鑄造になり高さ一丈八尺を算す、是れより山の半腹に出で右すれば長樂寺に、左すれば青蓮院に至る長樂寺は傳教大師の開基にかゝり傳教大師作千手八臂の十一面觀世音を安んじ、附近に時雨の紅葉、山上に頼山陽の墓あり、此の頂上に將軍塚を建つ桓武帝奠都の時、王城鎮護の爲め甲冑を裝ひ弓箭を持たしたる八尺の土偶を埋めたる處にして天下の變亂の起らんとする時は此塚必ず鳴動すと、又青蓮院は傳教大師の始祖、行玄大僧正の中興にして元天臺座主法親王の住持せし處たり、粟田神社は此の東方にあり、其他長樂寺の西には西行、俳人芭蕉、大雅等の遺蹟ある双林寺あり、是

れより南には櫻樹と萩の名所たる高臺寺、西國十六番の靈場にて櫻楓の名所たる清水寺、豊太閣の靈を祀りし別格官幣社たる豊國神社、古來射術の名と院本によつて傳へらるゝ三十三間堂、眞言宗新義派の本山智積院、叡山の別院たる妙法院、秀吉の骨を埋めし阿彌陀が峰、通天橋の名と共に楓樹の名所と知られし東福寺、四條天皇以後歴代の御廟所たり近くは孝明天皇、英照皇太后の御陵ある泉涌寺、また青蓮院より北方には動物園、臨濟宗の總本山たる南禪寺、楓樹の名所永觀堂、官幣大社平安神宮、智證大師の開基にかゝる聖護院、熊谷蓮生坊の故事を有する黒谷光明寺、天臺宗の名刹眞如堂、林泉の美を誇る銀閣寺等を初め其他探らば著名なる社寺及び名蹟勝地尙頗る多し。

—(鞍馬詣で)—

鞍馬山は比叡、愛宕と共に京の三山と稱えられ、信心に避暑に探勝に途山するもの多く、就中鞍馬山は三山中の名嶽を以て推さるゝ處、京都市元標(三條大橋にあり)より山麓まで三里、道は市の北端、鞍馬口より北に、市原、野中等の村々を経て至るべし、山は登るに従ひ古杉路を擁して立ち並び、枝稍空を覆ふて晝猶暗く、奇岩行路に横はつて峻漸くに加はる、巖て山腹に至れば鞍馬寺あり、松尾山と號し、天臺宗にして延暦十六年藤原伊勢人の草創にかゝり、毘沙門天を本尊とす、現今の堂宇は明治四年に再建する處、山上に至れば幾多の巒峰脚下に起伏して其眺矚頗る雄大を極め、加ふるに櫻樹多ければ春時は壯麗に、山高ければ盛夏

尙暑からず、洵に仙雲に入るの思あるべし。堂の左側より西北に向ふこと約十丁、僧正谷に至れば魔王堂あり、傳へ云ふ。此堂は往昔天狗の住居せし處にして源義經、牛若丸と名乗りし頃、此處にて天狗に劍法の修業を受けたりと、元より信を措くに足らずとは云へ岩石樹林の様尋常にあらず、是れより山上に辿ること八九丁に天狗杉あり是又天狗の住みし處と云ふ。
官幣中社貴船神社は鞍馬寺の西北方にあり、水神罔象女神を祀り古來降雨止雨を禱れば靈驗忽ち著はると傳ふ、社殿は下の社、奥の社の二ヶ所に別れ相距ること數丁、其西方に石を積んで船形をなせる天船岩あり、御手洗川は社の東方に清き素練をしいて南に流れ、附近極めて閑寂、時に奇鳥の聲を聞くべく、和泉式部が「物思へば澤のほたるも我身より、

あくかれ出る玉かぞぞ見る」と詠せしは此地なり。

—(比叡登山)—

比叡山は京都市の東北に聳ゆる峻嶺にして名利、延暦寺の所在地たり、京都市より登るべく又滋賀縣阪本村よりも登るべし、京都よりするには修學院村よりすると白川村よりすると八瀬村よりすると三路あり、修學院村よりは道路稍峻なりと雖も途次の名蹟を探り、且つ風光の見るべきものあるを以て是れより登るべし、京都元標より山上まで道程三里、道は京都の東北隅より修學院村を経て登るものにして途次修學院村には櫻楓を以て名ある修學院離宮あり、又此の南方に詩人石川丈山の詩仙堂あり京都元標より修學院村まで里程一里二十八丁、是れより比叡山まで四十

餘丁の山道を辿るなり、阪本より登るを東坂と云ふに對し此地よりは西坂の稱を附す。

山は登るに従ひ愈よ急にして峻、山上の高峰を四明が峰と云ひ、海拔二千七百尺、延曆寺は其南にあり、桓武天皇奠都の時、僧最澄に勅して建立せしめ以て帝都の鎮護となさしめ給ふ處、一山を三分して東塔、西塔、横川塔と稱へ、別に無動寺あり、修學院村より登らば先づ無動寺に至り、次で東塔、西塔、横川塔に至るべし、東塔は止觀院、西塔は寶塔院の名あり、其他根本中堂、講堂、戒壇堂、相輪堂何れも昔往の面影を残して甚だ壯嚴に、四邊の眺颯遠く山城、近江の湖山に及ぼし、溪谷の幽邃なる、樹木の鬱蒼たる、勝跡の多き筆舌のよく盡すどころにあらず、夏時避暑をかねて登るもの甚だ多し、東口に降るには根本中堂より阪本村まで道程二十八丁。

—(愛宕登山)—

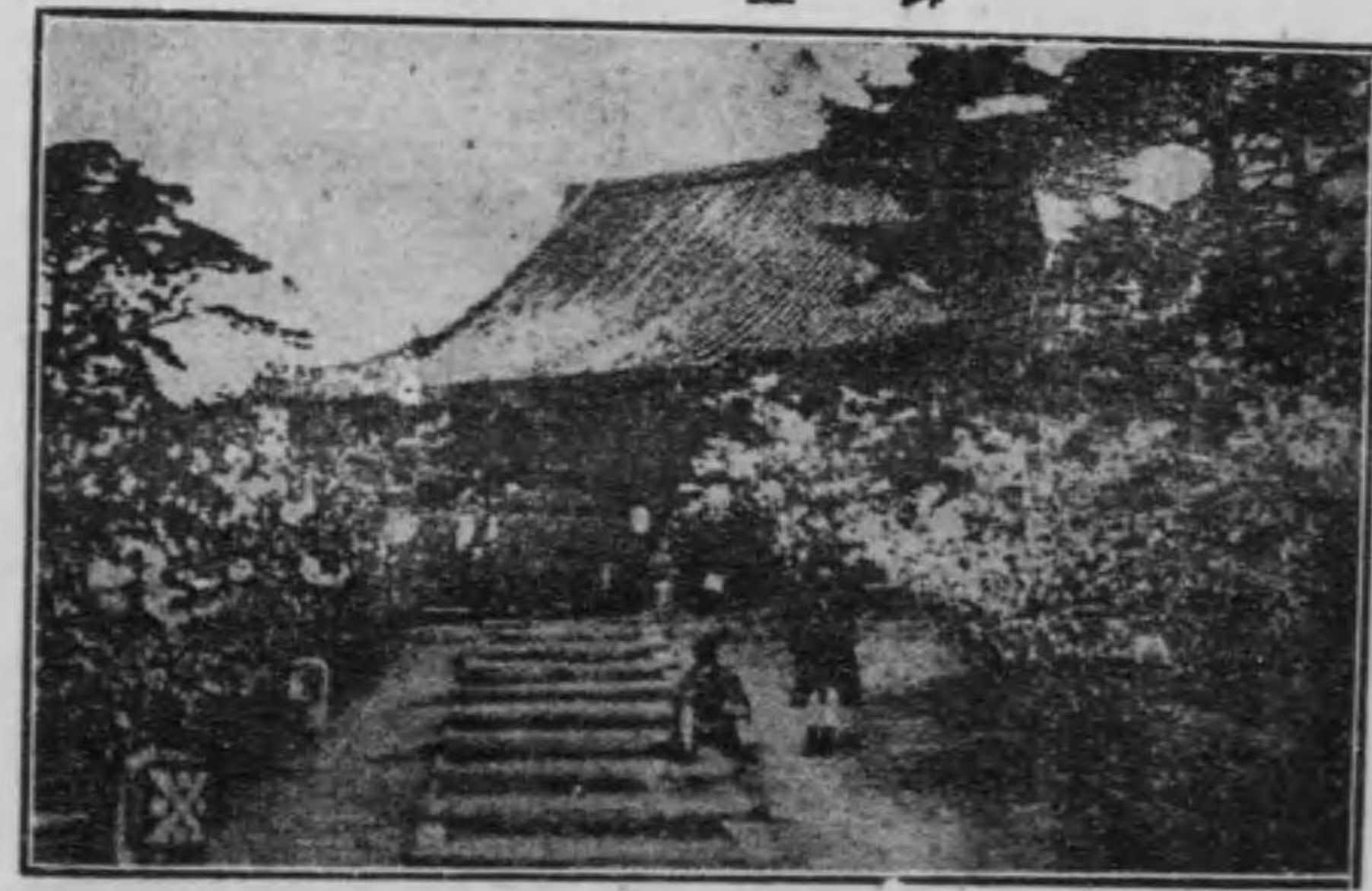
で道程二十八丁。

愛宕山は京都市の西北方約三里半、途次花園迄約一里二十餘丁の區間は山陰線によるを得べし、同線沿線の名蹟は「嵐山遊び」の項に別に述べたり、京都驛より花園驛迄三等乗車賃金十錢。花園驛の北方三丁に臨濟宗妙心寺派の本山、正法山妙心寺あり、其北方には細川勝元の創建になる臨濟宗の名刹龍安寺、同西方には眞言宗の名刹仁和寺あり、殊に仁和寺は光孝天皇仁和四年の創建にして宇多天皇落飾の後當寺に入り宮殿を造建し給ひしより一に御室また大内山の稱あり

爾來法親王の住職し給ふ所となり御室御所、御室御門跡とさへ傳へられしが、應仁の兵燹を初め度々祝融の災に罹り、今は祖師堂、金堂等をこゝむるのみ、されど寺域廣大にして寺内櫻樹多ければ、世に御室の櫻と稱へ春時遊賞の客頗る多し御室川の溪流は其西を流れ、水流奔湍、岸に激して水聲甚だ高きより一に鳴瀧川の稱あり、沿岸に奇勝多し。

愛宕山は是れより西北に向ふこと一里半其の東麓清瀧川の清流屈曲する處に古來

櫻 の 室 御



楓樹の勝を以て名高き高尾、榎尾、横尾の三尾、西岸に臨んで相並び、秋日黄葉の幽賞筆紙に盡すべからず、高尾の山上に神護寺あり、境内に和氣清麿を祀りて護法神とせしが、近年官幣社に列し、都下に遷されしより舊址は木柵を施して之れを護れり、榎尾には高山寺、横尾には西明寺あり、何れも幽閑の境を占め、紅葉の候、寺門の風光頗る佳なり。

—(嵐山遊び)—

嵐山は吉野と共に古來櫻花の勝地を以て傳へらるゝの地、京都よりは山陰線其東岸に近く嵯峨驛を置き、嵐山電鐵又市の西邊、四條に發して此地に來る、山陰線は乗車賃金三等片道十四錢、嵐山電鐵は同十一錢、此區間に於ける電鐵沿線の重なる名蹟をあぐれば、蠶の宮は蠶の社停留場の北方に官幣中社、梅宮神社は嵯峨野停留場の南方數丁に、松尾神社は梅の宮神社の對岸、松尾村に、桂離宮は同其西南に、車折神社は車折停留場の北邊に何れもあり。

京都市内よりならば嵐山電車の便によるべく又大阪方面より汽車によるならば山陰線連絡乗車券(嵯峨行)を求むるが宜しからん、此乗車賃金片道六十八錢、往復一圓廿八錢。

嵯峨驛の附近は古の嵯峨野にて北邊に觀月の勝地たる廣澤池、大覺寺、

釋迦堂、小倉山二尊院等の名區を訪ね、天龍寺の門前を過ぎ南して渡月橋畔に出ずれば左方遙かに昔を語る小督の塚あり、渡月橋は大堰川の碧流に架せる長橋、電車停留場は此の橋の袂に近く、聽て橋畔に出づれば水聲淙々として心身を清め、花時は白雲を展べたるが如き明媚なる山水眼前に展開さるべし、右すれば料亭軒を並べし三軒家あり、橋を渡れば身既に勝境に達す、停留場より渡月橋に至る區間に茶店飲食店等ありと雖も物價甚だ不廉なれば初遊者は心するが宜しからん。

橋を渡りて右すること約五丁に、千鳥ヶ淵の勝地あり、淵の上に身投石ありて昔横笛と云ふ婦人、瀧口時頼を慕ふて三室寺に至りしも逢はざりしを怨み此處より身を投げて死すと云ふ、芭蕉の句に「花の山二丁のぼれば大悲閣」は此處より登るべし、大堰川開鑿の功を遂げし角倉了意の

像は閣内に納め閣前には其功績の碑を建てたり。
山は温容にして峻ならず、櫻は龜山上皇の吉野より移し植えさせ給ひしに初まりたりと雖も今は殆んど吉野を凌ぐべく思はれ一嵐山霞の奥は知らねども見ゆる限りは櫻なりけり」の古歌以て其一斑を推するに難からず、加ふるに附近の風光秀絶なること近畿其比甚だ尠く楓樹又多ければ花時を誇るの嵐山は更らに秋葉の眺めを誇るべし、日本三虚空藏の一なる嵯峨虚空藏は山の東腹なる智福山法輪寺に安んじ、毎年四月中旬には十三詣りと稱へ、男女十三歳に及べば此處に養して智福圓滿を祈ると傳へ參詣者踵を接す。
保津川は嵐山の下を繞れる大堰川の上流にて世に保津川下りと稱へ遊ぶもの多し、即ち項を更めて其勝を説かん。

—(保津川下り)—

保津川は山城國大堰川の上流にして源を丹波國北桑田郡及び山城國愛宕郡の溪谷に發し、丹波國船井郡に出でて他流と合し南桑田郡保津村より山城に入るものにして保津川下りは丹波國龜岡に舟を舩して山城の嵐峽に至る流域を下るなり。
時季は春夏秋冬何れも可なるも其内初夏の杜鵑花、躑躅の候を最も可とす此行は往路を山陰線によりて龜岡驛に下車し、保津川遊覧船にて嵐山々下に至り歸路を嵯峨驛より乗車して歸着するものにして此乗車賃金大阪龜岡間乗車賃金八十二錢、遊船賃切六人乗八圓、乗合五六十錢、嵯峨大阪間は前項の通り六十八錢。

龜岡驛に下車して時間の許すあらば舊松平氏の居城たりし龜山城址を探るも可、また聊か遠きに失すとも驛の西方約一里、曾我部村なる六穂寺に賽するもよし、城址は今は殆んど廢頽して僅かに天主臺址を残すに過ぎざれども六穂寺は西國二十一番の靈場として堂宇の結構甚だ壯麗なる名刹なり。

山陰線は當驛より西北に延び、八木、園部、殿田、胡麻、和知、山家等の諸驛を過ぎ綾部驛にて舞鶴線を岐ち、西に石原驛を経て福知山に至り福知山線と接して島根縣に向ふと雖も、沿線中特に記すべきの名蹟なく強て探らば和知川の鮎狩、秋季の松茸狩なるべきか。

さて保津川を下らんには驛の東北方五丁、保津川河畔に至れば乗船所あり、驛より人車賃金六錢、船を求めて之れに乗れば船急瀬に乗じて忽ち

箭の如く下る、見る兩岸の峽崖或は狭く或は廣く、狭き處水愈よ急に、廣き處澱むが如くにして然も水勢衰へず、峽中石あり水之れと闘ふて激し、舟之れに觸れんとして舟子の操る一竿巧に觸れしめず、其壯にして快なる身嵐其境に至らざれば其感を覺えざるべし、加ふるに過ぐ峽るところ女夫石、くゞり岩鳥帽子岩、鏡岩等其他奇岩怪石の送迎違あらず、崖面又躑躅ありて花時燃ゆるが如く水色に映じ壯觀言語に絶し、萬象漸く定まらば四里の水程夢の間に過ぎて早くも嵐山



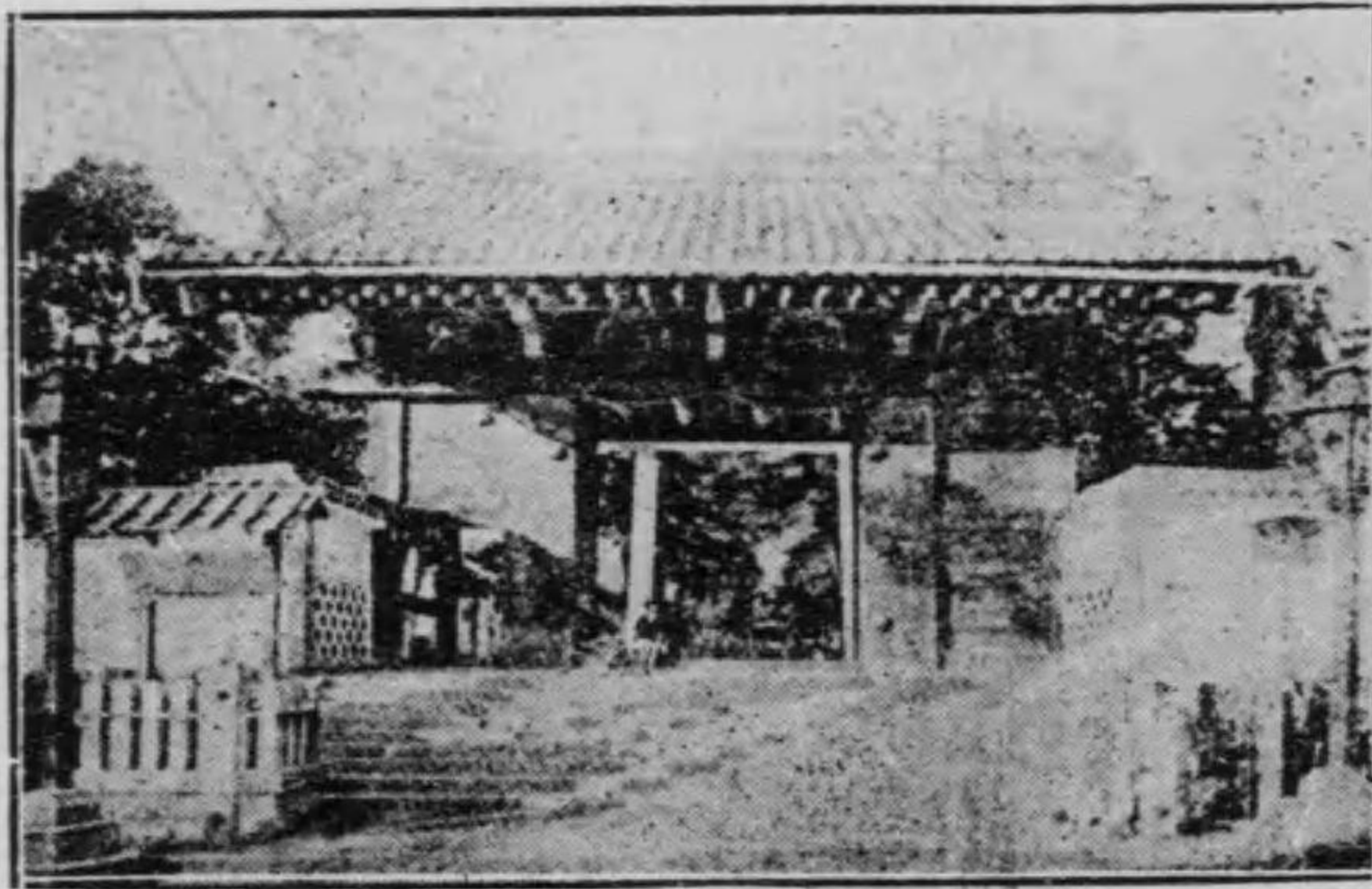
の麓に達したるにて嵐峽の勝、舟中よりすれば一段の雅致を添ゆ。
以上にて京都市及び附近の名蹟は殆んど述べたり、更らに南郊に向つて
伏見町附近に至らんか。

—(伏見まで)—

稻荷神社は伏見街道の東側、稻荷山の山麓にあり、京都驛を出でたる東
海道線は此の社前に近く稻荷驛を置くも雖も近く其竣工を見るべき逢阪
山線路改修の上は當然撤廢となるべく、其上は現今の奈良線、此處に至
りて新に稻荷驛を設くべき豫定なりとか、兎もあれ京都驛より現今の稻
荷驛まで乗車賃金三等片道四錢、大阪驛より片道乗車賃金五十九錢同往
復一圓十三錢、外に京阪電車、京都電車の便あり、京阪電車は五條停留

場より稻荷前停留場迄五錢、京都電車は京都驛前より稻荷停留場まで四
錢。
稻荷神社は和銅二年始めて三ヶ峰に鎮座せしを永享十年、足利義教の祈
願により現今の地に遷すと、官幣大社にして宇迦之御魂大神、佐田彦大
神、能賣大神の三神を祀り五穀豊穰の神として古來歷朝の崇敬深く屢々
行幸の御事あり、今の社殿は天正十七年、豊太閤の造營せし處、社殿樓
門何れも頗る壯麗に、境域又廣濶にして幽邃なれば賽者自ら襟を正す
の感あるべし、附近に法華の道場たる瑞光寺、七面の瀧ある寶塔寺、石
峰寺等の名刹あり。
是れより以南、伏見まで京阪電車線によれば途次探るべき名蹟尠からず
即ち師團前停留場に至れば第十六師團の兵營は近く、嘗て民間の飛行家

武石皓波氏が墜落惨死を遂げたる深草練兵場は其北方に連り、藤森神社は停留場より東二丁、社は古來軍神として歴朝の御信仰厚く、天應元年蒙古襲來の時、出陣の命を奉じたる天武天皇の王子舍人親王、此社に祈願をこめて戦勝を祈られしは史上著名なる處、毎年六月五日祭典を行ひ軍装祭として世に傳へらる、深草十二陵、嘉祥院は何れも停留場より數丁、墨染停留場の所在地は伏見町の一部にして古來墨染の里とて有名な處、墨染櫻のある墨染寺近く、深草少將の遺蹟ある欣淨寺は其南方に榎木町の遊廓には赤穂義士の統領大石内藏助遊興の舊蹟を存す、伏見停留場は伏見町の東南隅にあり、奈良線には又た此地に伏見驛を置き、京都電車同く來つて當町の西北隅、中書島に至つて止る、京阪電車は京都より八錢、大阪天満橋停留場より三十二錢、奈良線は京都驛より七錢、



御 香 宮

伏見町は古往伏見野と稱せし荒原にして古歌に詠せられ只だ僅かに二三の寒村を存するに過ぎざりしも豊臣秀吉の桃山城を築きてより人家漸く加はり徳川氏の治世には既に大都邑をなし伏見奉行を置く等以て其盛況を今日に傳へし地なり。御香宮神社は伏見停留場の東に近し、神功皇后外八柱の神を祀る、初め御諸神社と號へしも清和天皇の御宇、境内より香り高き水を涌出せしより御香宮と名けたりと、社殿の結構壯重を極め、社前の華

表は有名のものにて御香水の靈泉は華表の側にあり、明治天皇の鎮ませる伏見桃山御陵は此の東方六丁なりといへど、御陵參詣は「宇治まで」の項に述べたれば略、伏見觀月橋は同停留場の南三丁、維新前、薩藩の志士西郷隆盛等密議を凝したりと云ふ大黒寺、志士殉難の碑ある寺田屋は中書島停留場より至るべし。

桃山城 墟

伊藤東涯

叱咤時移霸業空

百年葵麥動春風

金湯變作挑花塙

遠近霞燕千里紅

琵琶湖めぐり

古來琵琶湖の勝を説くもの必ず先づ近江八景を以てす、八景元より詩韻
旺溢、三井の晚鐘、堅田の落雁、石山の秋月、粟津の晴嵐、矢橋の歸帆
比良の暮雪、唐崎の夜雨、瀬田の夕照等一として雅致ならざるは無きも
周圍七十餘里の大湖、漂波滉洋として傳はる處、又他に探るべき風光頗
る多し、殊に此間、志賀の古都あり、著名なる社寺名蹟の點綴するあり
て是れを仔細に求めんには到底一日の旅とすべからざるも又た船車發着
の時間に注意せば其主なる地を通覽して一日の遊覽と爲すを得ざるにあ
らず、殊に太湖汽船又特に遊覽専用船、白石丸を初の竹生島、多景島、八
景等輕快なるを備へて其日歸り、一泊掛り等遊客の利便を計るあり、近

畿地方の遊覧として逸すべからず、即ち其乗車船賃金は左の如し。

大阪大津間汽車賃 片道 七十五錢 往復 一圓四十錢

大津竹生嶋間西汽船賃 四十七錢 竹生嶋大津間東汽船賃 四十二錢

以上の如くにして船内に食堂、浴室、化粧室等を備へ、殊に白石丸には夏季は煽風装置、冬季は暖温器の設けあれば春秋は元より、夏冬の酷熱厳風も感ずることなし。

日歸りの豫定にて是れに遊ばんには大津湖岸を午前七時前後出港の西廻り汽船によるべし、船は途次堅田、小松、大溝等を経て午後零時半に竹生島に着す、同島に上陸、神社佛閣に參詣を済し四邊の風光を賞し歸路は午後三時半前後同島を出發の東廻り船により長濱、彦根、長命寺の勝

景を賞し午後十時前後に大津へ歸着、また往路を東巡りにとり歸路を西巡りにすれば午前八時半前後出發の汽船によるも午後十時過ぎには大津に歸着するを得し

一泊掛けの豫定なれば午前中は大津市附近の名蹟を探り、午後一時半前後大津出發の西巡り汽船にて竹生島に午後七時着、其夜は竹生島坊舎に一泊を請ひ、閑寂にして清雅なる風光に憧れ一夜を明し、翌日午前十時前後同島發東巡り汽船にて歸

琵琶湖遊覽圖



翌日午前十時前後同島發東巡り汽船にて歸

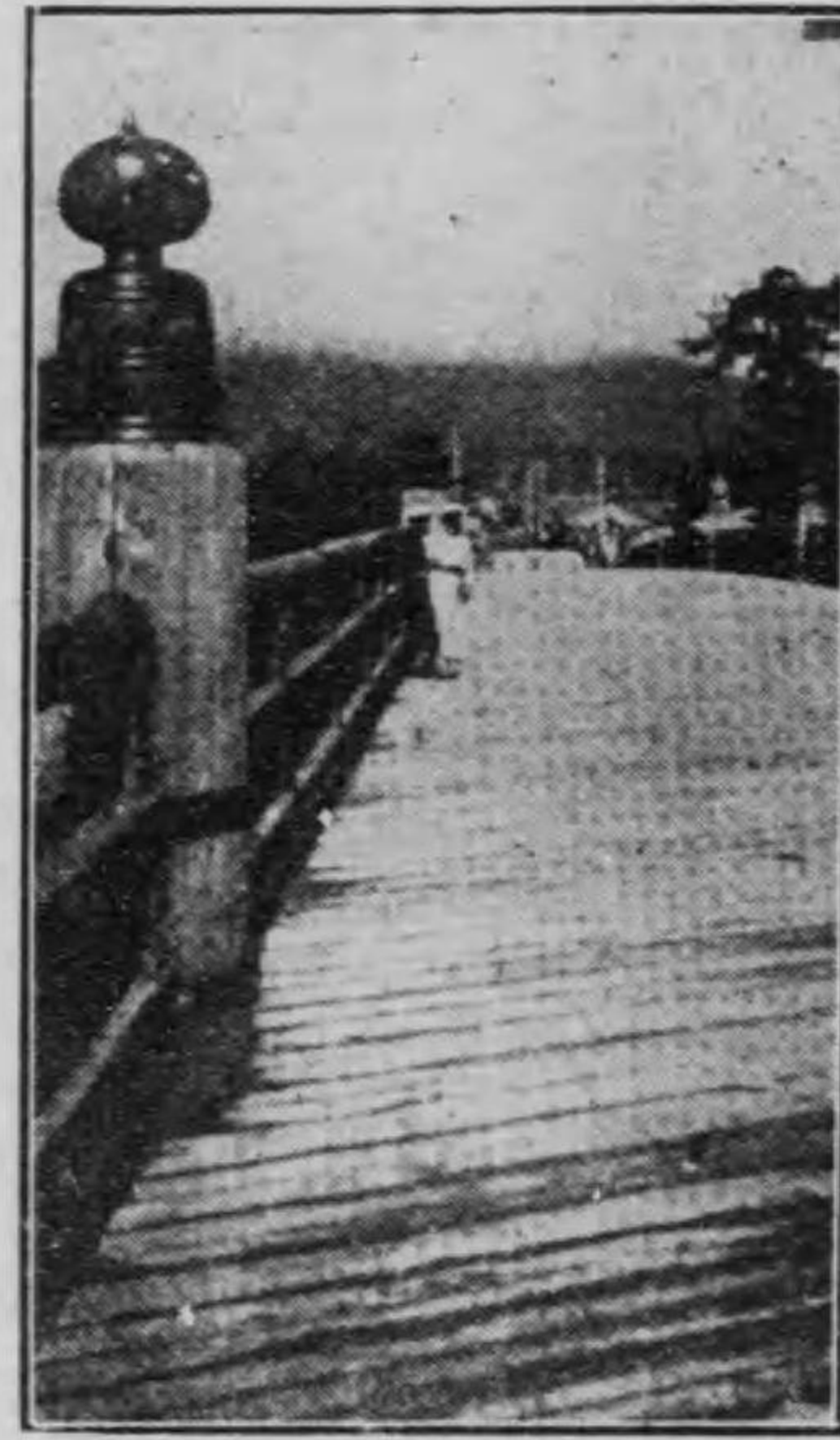


三井寺の眺望

途につけば午後三時半大津に着するを得べし。
以上何れとも遊者の意に任し、茲には大津市附近及び是れが航路に近き各地の名蹟を擧げんに大津市の西方に接せる翠巒の中には三井寺園城寺あり、寺は天台宗にして朱雀元年の草創にかゝり臺教傳道の大道場たる名利、往古は一山に八百五十九坊を有したりと雖も爾來屢々火災に罹りたるため今は其大半を失ひたるは惜むべし、寺域七萬五千坪を超え、山上風

光の美は云はずもがな、寺内に辨慶の遺蹟を初め寺寶多し、膳所の城址は大津市の東方に今尙僅かに存すと雖も滋賀縣監獄署の所在地たれば舊時の風光を見るに由なし、粟津ヶ原は其東方、舊東海道街道なりし松並木のある附近一帯の稱にて、木曾義仲を葬りたる義仲寺は石山驛の東方四丁、寺内に俳人芭蕉の墓あり、碑に刻したる門人の句に云ふ「木曾殿と脊中合せの寒さかな」
瀬田の唐橋は粟津ヶ原の東、琵琶湖の水流勢多川となつて南に流るゝ河上に架す、橋名は青柳橋と云ふも古歌に瀬多の長橋、或は瀬田の唐橋等に詠まれ、世にまた橋名を云ふもの尠し、橋は中央に小島を挟んで大小二橋を架し、高欄寶珠古色を帯びて甚だ韻致に富み橋上の風光甚だ閑雅なり、官幣大社建部神社は橋の東方に、石山寺は西畔を直路南方に向ふ

べし、おほつし 大津市より石山寺まで大津電車通ず、寺は西國十三番の靈場にし



て石山村宇寺邊の山腹にあり、天平勝寶年間良辨そらぞら 僧正の開基にかゝる處、しるま 寺域殆んど一萬を算し、てうぞく 堂前の眺矚琵琶の湖面を

一瞬に收めて風光甚だよく、古來觀月の勝地として名あり、此處より勢多

川に沿ひて南すること約一里に立木觀音、更らに半里に鹿跳の勝、尙半里に西國十二番の靈場岩國寺等あり。

以上は大津市附近に於ける主なる名蹟にして是れが巡覽を終らば湖南の西巡り船により沿岸の名蹟を指さんに、船は大津の海岸を發し、三井寺山下を過ぎて直路北航すれば左方に志賀の舊都址あり、地は今の滋賀村字錦織なり、忠度の「さゝ波や志賀の都はあれはて、昔ながらの山櫻かな」と詠せし處、是れより進むこと須臾に唐崎の松を遙かに見るべく其稍北方に當つて高く聳立する峻嶺は延曆寺のある比叡山、其山麓なる坂本村には、官幣大社日吉神社及び來迎寺、西教寺の二名刹あり、地は明智光秀の嘗て居城とせし處、船は懸て堅田に着すれば落雁を以て八景の一に謳はれし浮見堂は湖上に影を映、比良の高峰は堅田より小松に至る途次左方に其雄姿を望むべく、小松崎は近江舞子の稱ある處、揚梅の瀧は海岸より北方約一里、中江藤樹の講堂たりし藤樹書院は大溝より西

方約一里

船は今津の海岸を放れ、大崎の断崖を北方遙かに見すて、東に航路を進め、約二十五分にして竹生島に着す、竹生島は琵琶湖中の北端にある一孤島にして其風色の美は古來詩歌に詠せられ謠曲に謳はるゝ處、周圍約三十丁、島中に西國三十番の靈場寶巖寺を初め都久夫須摩神社、辨財天等あり、遊者は寺坊に請はゞ一泊を許さる。

唐崎の松は月よりおぼろにて



(上) 石山寺



(下) 唐崎

(上) 敦賀港と
(下) 金ヶ崎の宮



峰を抜いて立てるを見るべし、一は海拔四千五百尺の高山、一は羽柴秀吉の強敵柴田勝家を倒したる古戦場たり。長濱は湖東第一の繁華の地、北陸線は米原に岐れて此地を通り敦賀を経て越後に向ふ金崎神社は同線にて行くべし、彦根は伊井氏の舊城下たりし處にて城址は棧橋より約十丁、一に金龜城と稱し、三層の樓閣は白堊皎々として湖上より望むを得、有名なる楽々園は此の北麓にあり、園内に近江八景を摸したる八景亭ありて

幽閑の美を極む、官幣大社多賀神社は彦根を起點とする近江鐵道により多賀驛に下車して參詣すべし。

彦根を發したる汽船、針路を南するに従ひ、多景島、沖の白石、沖の島等の孤島を送迎して間も無く奥の島に着す、島の南方に西國三十一番の靈場長命寺あり、境域廣濶にして土地極めて高燥、眼界頗る洞達したるを以て大湖の風光双眸に遺憾なく收むを得べし。

船は奥の島を發して大津驛に歸着する途次、往路に於て西方に注ぎたる眼を歸路東にすれば、眺矚又一變して頗る趣あり、殊に野洲川の川口を過ぎて遙かに望めば俵藤太の故事によつて有名なる三上山は屹然として聳ゆるを見る。

やちもちや柳に長き命寺はこぶゆめみのかさしなるらん 華山院

養老の觀瀑

養老の瀧は古來孝子の名と共に頗る高し、地は美濃國にありて大阪よりは稍遠きに失すと雖も養老鐵道によれば西國三十三番の靈場谷汲寺も賽すべく、殊に附近頗る幽閑にして櫻楓の名所なるを以て特に述ぶることとしたり。

順路は大阪驛より東海道線により大垣驛に下車すべし、大阪驛より同驛迄哩程九十四哩、乗車賃金通行税別にて三等片道一圓七十四錢、往復なれば同二圓九十五錢、大垣よりは更らに養老鐵道線に乗り換へ養老驛に至る、此哩程八哩八、乗車賃金片道二十四錢、兩線連絡往復券あるを以て同券による方買次ぎの煩なからん、時間は大阪より約四時間半（急行と

普通に夫れく時間(じかん)の差あり。養老線(やうらうせん)は約(やく)三十分。谷汲寺(たぐみ)は大垣驛(おほがきえき)より池野線(いけのせん)によるを以て行路(ぎょうろ)は先づ養老(やうらう)に向ひ、歸路(きろ)を谷汲(たぐみ)にとるが可(よ)ならん。即ち先づ養老(やうらう)より案内(あんない)せんに養老線(やうらうせん)の終點(しゅうてん)養老驛(やうらうえき)に下車(げさ)し、驛前(えきまへ)の新開路(しんかいろう)を右(みぎ)に辿れば約(やく)三丁(さんてい)に千人塚(にんづか)あり、之れより尙進(しやうじん)むこと一丁(いつてい)にして道(みち)は二路(にろ)に岐(まが)れたり。雖(いへど)も廣(ひろ)きに沿(よ)ふべし、途次(とじ)道を挾(はさ)みたる梅林(ばいりん)を過(す)ぎて養老寺(やうらうじ)に養(やう)し、尙進(しやうじん)めば右(みぎ)に石階(いしはし)を通(と)じたる養老神社(やうらうじんじゃ)あり、社側(じやうがわ)に往(むか)古美酒(こびしゆ)に變(へん)じたりと云(い)ふ靈泉(れいせん)及び小瀑布(せうばくふ)かゝれり、社前(じやまへ)を尙(なほ)も本道(ほんだう)に辿(た)れば幾多(いくた)の櫻樹路傍(やうじゆろぼう)に羅列(られつ)し花時(はなとき)の眺(なが)め云(い)ふべからず、其盡(そのつ)くる所に溪流(けいりゆう)通(と)じ附近(ふきん)は一帯(いつたい)の楓樹(かへしゆ)を以(もつ)て滿(みち)ち秋季(しゅうき)の候(こう)又(また)た人目(じんめ)を眩(くら)せしむるに足(た)る、溪間(せきま)の小橋(せうきやう)を渡(わた)り、再びまた一橋(いつきやう)を渡(わた)れば道(みち)は次第(さいだい)に小徑(せうけい)となり、地(ち)は愈(ゆ)よ幽邃(ゆうすい)を加(か)へて瀑聲(はくせい)次第(さいだい)に近(ちか)く傳(つた)ふ、響(ひび)を辿(た)り尙進(しやうじん)むを進(すす)める幾許(いくばく)ならずして徑路(けいみち)全(ぜん)く窮(きゆう)り前面(ぜんめん)斷崖(だんがい)の頂(いただき)より琴々(たんな)として潭底(たんてい)を撲(たたく)つ素簾(すれん)のかゝるを見るべし、之れ養老(やうらう)の瀧(たき)にして徑路(けいみち)る所(ところ)一小平地(せうへいち)をなし休憩所(きゆうけいじよ)の設(た)けあれば此處(こゝ)より觀(み)るをよしとす、驛(えき)よりの道程(みちのり)約(やく)半里(はんり)。



此處(こゝ)より歸路(きろ)を元來(もとより)し道の二(に)つ目の橋畔(きやうはん)に出(で)て橋(はし)を渡(わた)らずして溪流(けいりゆう)の右(みぎ)に沿(よ)ひ進(すす)めば妙見堂(めうけんどう)あり、公園(こうえん)一帯(いつたい)の風光(ふうかう)は此(こ)の堂前(だうぜん)より望(のぞ)むべし、之れより、橋(はし)なけれど溪流(けいりゆう)の石(いし)を傳(つた)ふて再び養老頭(やうらうだう)に出(い)で歸路(きろ)につくべく、若(も)し酒食(しゆじき)中食(ちゆうじき)等(とう)を得(え)んとならば此附近(このふきん)旅館(りやうかん)料理店(れうりてん)の散在(さんざい)するあ

りて價格は高からず。

谷汲寺は再び養老線により大垣驛を経て北に向ひ、池野線池野驛にて下

車、大垣よりは哩程六哩五、賃金通行税共片道十九錢。

遊者池野驛に下車して揖斐街道を東北に進めば郡の都邑揖斐町に達す、

之れより尙進んで小坂隧道を過ぐれば一路谷汲寺に至る、此道途約三里

道路平坦なれば人車の便あり、池野より谷汲迄片道一圓内外、往復一圓

五十錢位。

谷汲寺は華嚴寺と號し桓武天皇の延暦十七年、豊然上人の草創する所、

文珠大師作十一面觀世音を本尊とす、上人初め此地に一字を建立せんと

て工を起し巖を穿ちしに忽ち油の涌出するありしかば之れを佛燈に供し

名けて谷汲と云ふと、境域甚だ廣く、十數字の堂宇斷續して綠樹花木之

れを繞り、賽者をして自ら崇仰の念を起さしむ。

萬代のねかひをこゝに納めおく

華山寺

水は苔より出つるたにくみ

初夏より初秋に亘る候にして若し時日の許すあらば是れより長良川の鵜飼見物を試るも一興ならん、長良川は岐阜驛にて下車、市内電車の便により長良橋まで至るべし、岐阜驛迄大垣より八哩七、此乗車賃金三等十九錢、大阪より百〇二哩七、此乗車賃金通行税共一圓八十七錢往復三圓二十錢、電車賃金片道九錢、長良川附近には金華山の勝區、名和昆虫研究所あり、但し鵜飼見物は無論一泊の豫定ならざるべからず、岐阜市に於ける宿泊料普通一圓五十錢以上。

箕面線めぐり

箕面線めぐりとは大阪を起点とし北攝の箕面及び寶塚に達する阪神急行電車の沿線めぐりなり、電車は大阪驛の北邊に發し、北に走りて石橋停留場より二路に岐れ、一は箕面に、一は寶塚に至つて止る、全線を六區に別ち乗車賃金一區六錢（通行税別にて）を要するも全線を回遊せんとするは回遊券によるをよしとす、全線回遊券通行税共六十一錢。

梅田及び北野の兩停留場は大阪市内に屬すれば述べず、淀川の鐵橋を渡りて十三停留場に至れば東方十丁に崇禪寺馬場あり、正徳年間、和州郡山の藩士、遠藤兄弟父の仇を討たんとして反つて無慘の最後を遂げし故事は世に名高し、當時の崇禪寺の僧憐みて其遺骸を寺内に葬りしが墓石

は兄弟の遺物と共に今尙存す、脚氣に靈驗顯著なりとて脚氣天神の稱ある服部天神は服部停留場の東方半丁を出でず、創建の年代詳ならざれども花山天皇の再建にかゝる古社にして境内甚だ神寂びたり、原田神社は岡町停留場の前面にあり、是又創建の年代詳ならざれども頗る古社に屬し神域廣く、古松老杉社殿を覆ひて其幽邃云ふべからず、毎年一月七八兩日は菜摘祭を、同二月二十日には祈念祭を行ひ、其古雅なる式典は賽者をしてそゝるに往古を偲ばしむ、附近に瑞輪寺、寶珠寺、佛眼寺等の名刹あり、石橋停留場は箕面、寶塚兩線の分岐點たる所、行基僧正の開基にかゝる釋迦院は停留場より北十二丁にあり、先づ線を箕面方面に取りて櫻井停留場に至れば新田義貞の足利尊氏等を追撃したる瀬川古戰場は西方二丁、辨慶鏡水は南方五丁、赤穂義士の一人、萱野三平の舊宅

箕面の瀧と
寶塚の温泉



及び其墓は東北十二丁にあり、箕面停留場は箕面公園の入口にあり、箕面公園は箕面村箕面山中景勝の地、八十五町餘歩を有し、山あり谷あり翠巒溪流を挾んで頗る閑雅の境、殊に古來瀑布と紅葉とに名を得近年又櫻の名所として併稱せらるゝに至る、箕面電鐵會社にては巨額を投じて園内に諸種の設備を整へ山内には役小角が開基せし瀧安寺の名刹あり、當時は密教の法窟修験の道場として俗人の容易に近くを許さざりしも天正年間兵燹に罹りてより寺連斬ぐ度

へ以て今日に至ると、箕面の瀧は堂側より尙進むこと十八丁にあり、高さ十一丈餘、飛沫玉と散つて四邊を霑ほし、三伏の暑熱も洗ふべく秋は附近楓樹の錦繡を彩るありて一幅の名畫も尙及ぶべからず、瀑上に白龍石、坐禪石、錫杖石、三鈷の松等あり、醫王岩は停留場より東十丁、箕面山の峰續きなる東坊ヶ島道心ヶ谷の溪間にあり、高さ十五丈、其眺め甚だ雄大なり、西國二十三番の靈場、勝尾寺は此處より東方約一里半、豊川村字粟生にあり、孝仁天皇の皇子、開成王の創建になり僧善仲を開基とす、其後壽永の役に兵燹にかゝりしも源頼朝再建せしは現今の堂宇なりと。

箕面を後に再び石橋停留場に戻つて寶塚線に向へば豊能郡の名邑、池田町の西端に本線の池田停留場を設く、停留場前に吳服神社あり、老樹鬱

蒼として、五月山は其北を圍み、猪名川は潺湲として附近を流れ、社域は幽邃の氣満つ、能勢の妙見は能勢口より能勢電鐵の便によりて賽すべし、鐵路は一の鳥居停留場を終點とす、是れより尙一里餘にして至る、中山寺は中山停留場の北方に近し、紫雲山と號し西國二十四番の靈場に於て御室派眞言宗別格本山たり、山上の眺曠よく寺内に櫻樹多ければ春時遊樂をかねて參詣するもの夥し、米谷梅林は清荒神停留場の附近約三萬坪に餘る境域にして花時馥郁たる芳香は車窓に吹いて薫ばし、古義眞言宗の名刹清澄寺は同停留場の北三丁、寶塚温泉は本線の終點寶塚停留場の所在地にあり、武庫川の對岸にあるを舊温泉とし、箕面電車線の布設と共に同電鐵會社の經營になる新温泉は宏壯なる洋館の建築を以て停留場に近く設けられ、夫れに隣りしてバラダイスと稱ふる壯麗なる歡樂

場を建て、同社に屬する少女歌劇團を以て四時諸種の餘興を演じ、附近俄に料亭旅館櫛比して廣大なる遊園地をなすに至れり、寶成梅林此地より近く、初夏には武庫川に鮎漁あり、秋時月の眺め甚だ雅に、冬季の雪景又見るべきを以て四時杖を曳くに可。

尙阪神急行線梅田池田間、同箕面間は各三十七錢、梅田寶塚間は四十八錢

院線福知山線又池田、中山及び寶塚に通じ大阪より池田迄哩程十一哩五、乗車賃金三等片道二十四錢、中山迄哩程十三哩六、乗車賃金三等片道二十九錢、寶塚驛迄哩程十五哩六、乗車賃金三等片道三十三錢

有馬の靈泉

有馬温泉の効果顯著なることは「お醫者さんでも有馬の湯でも」云々の俚語と共に夙に知らるゝ處、舊時は行路の嶮なりし爲の甚だ便を缺きたりと雖も、今は鐵路既に其地に達し、大阪よりは約二時間半にして至るべし、行路は福知山線によりて三田驛に至り、同驛より有馬輕便線に乗り換へるものにして鐵道院にては時期に應じて直通車を發し、乗車券は連絡券あり、大阪より有馬まで哩程三十四哩一、賃金三等七十錢、二等一圓二十三錢とす。

有馬町は六甲山の北方にありて三面峻嶺を以て繞らし只だ東北の一方僅かに開け、街衢は溪間にありて屋宇は丘陵を掘鑿して建つ、温泉場は其

間に擁せられ巍然として甍を聳てる御殿作りの建物にして泉質は鹽類炭酸泉其主要を占め胃病、貧血、神経病、佝麻質、皮膚病等に効顯多きを以て浴客常に集り、殊に地は夏時避暑に適したるより來遊する者甚だ多く、爲めに旅館櫛比して甚だ般盛なり、附近の名勝としては温泉寺、同く温泉神社、落葉山、鼓ヶ瀧、四十八ヶ瀬等を主なるものとす、温泉寺は同町愛宕山の半腹にあり、

有馬炭酸泉湧出場



行基僧正の開基にかゝり仁西上人を中興とす

し温泉神社は初め温泉寺に屬して湯山三所權現と稱せしも明治維新の際



石馬鼓の瀧上

のにて其高さ三丈六尺、幅一丈八尺を有し、
愈よ深閑の氣を加へ瀑前には有馬八景の一たる有馬櫻あり、崖上には楓

神佛混合禁止の令出でしよ
り獨立して社格に改め、落
葉山は眺矚の佳と山麓に曹
洞宗の名刹善福寺あるによ
つて其名を知られ、鼓ヶ瀧
は有馬名所の一として數へ
らるゝ所、町の南方八丁、
瑞寶寺址の崖下にかゝるも

樹夥しく春秋共に美觀を添ふ四十八ヶ瀧は小多々川の流域にして溪流の
船坂より生瀨に至る約二里の間、急湍雪と散るもの、飛沫飛んで玉とな
るもの其他奇勝多く四十八ヶ瀨の名之れによつてなると、途中屏風岩の
大觀あり、高さ五丈に餘る一巨岩の屏風を展べたるが如く、昔弘法大師
此の岩面に彌陀の名號を記したりと稱え、今尙幽かに見るを得べし。

費用

其日歸りなれば汽車賃の外、中食費のみにて足ると雖も
物價比較的廉ならず、中食五十錢以上、宿泊料八十錢以
上際限なし、旅館は兵衛、池の坊、二階坊、御所坊、中
の坊、奥の坊等著名なり。

いく里の夢おとろかす聲ならん

典仁親王

此の山寺のいりあひのかね

天の橋立遊覽

天橋の遊覽は大坂より一日の行遊としては行ひ難きも日本三景の勝地に
して然も近畿に近ければ是又逸すべくもあらず、即ち其行路と主なる勝
地を述べんか。

大阪よりは福知山線によりて舞鶴に出で宮津灣航路連絡船を以て宮津に
至るを航路とするも哩程に於ては京都を経て山陰線經由舞鶴に至るは稍
近し、即ち舞鶴迄の哩程及賃金の比較は左の如し。

京都經由舞鶴迄 哩程九十一哩九 賃金一圓六十七錢 往復 二圓八十九錢
福知山線經由同 哩程九十五哩七 賃金一圓七十四錢 往復 二圓九十九錢
舞鶴宮津間航路賃金三等片道四十五錢 二等同六十五錢(以上各通行税別)

船舞鶴海岸を出づれば日本海の壯觀次第に前面に展開し其快云ふべから
ず、十六哩の航程、約二時間にて宮津棧橋に着すれば灣内港路汽船に搭
じて文珠に上陸すべし、文珠は日本三文珠の一たる切戸の文珠を安んず
る所にて文珠閣は近し、夫れより南方の海岸に沿ひ龍燈の松、式部櫻、
鶏塚、赤石を見、又西して櫻山に向へば天橋の風光を賞するに恰好なる
小丘あり、是れに登るも可、再び文珠に引ッ返し切戸の渡船にて天橋の
一端に上れば銀の如き一帯の砂州青松を負ふて續くこと約一里、是れに
沿ふて進めば途次、磯清水、橋立明神、天橋公園あり、砂州の北端は江
尻と云ひ、成相山路を辿ること十八丁に傘松と稱する平地あり、天橋の
風光を茲より眼を放ては縦一文字となりて碧波に姿を浮べ其風光畫の如
く、尙登れば山上に西國二十八番の靈場成相寺あり、再び江尻に下りて

小舟に賃し、文珠に戻りて灣内航路
 汽船により岩瀧に上陸し同地の後方
 なる橋畔に登れば、此處は世に云ふ
 股覗きの地にして、天橋の景に脊い
 て立ち、腰を屈めて股間より望めば
 一里の天橋横一文字となりて恰も天
 の浮橋の如く頗る奇觀を呈して天橋
 の名之れにあるを轉た思はしむべし
 以上は普通天の橋立の遊覽區域とす
 る所にして遊者は之れより歸途に就
 かんには宮津より再び宮津航路汽船

天の橋立遊覽略圖



によりて舞鶴に至るべく或はまた古往酒顛童子の住みしと云ふ大江山に
 向はんとなれば宮津より道を南にとり、大江山及附近、古蹟を探りて福
 知山に出づべしと雖も路嶮にして道程稍遠きに失すれば一日の旅とする
 本編には省くことゝしたり。
 尙宮津灣内に於ける航路の乗船賃金を擧ぐれば左の如し。

宮津	文珠間	三等	九錢	文珠	岩瀧間	三等	九錢
宮津	岩瀧間	三等	十二錢	文珠	須津間	三等	十二錢
宮津	須津間	三等	十二錢	岩瀧	須津間	三等	九錢

以上何れも通行税は別なり。

補遺

永源寺の觀楓

永源寺は滋賀縣愛知郡の南隅、東小椋村字高野にあり、愛知川の
上流なる溪川を隔て、神崎郡相谷熊原に對し、土地幽閑にして景勝の地を占め
殊に古來觀楓の勝區として最も名高く、寺は瑞石山と號し、臨濟宗の名
刹として世に知らる、行路は東海道線八幡驛にて湖南鐵道に乗換へ、八
日市驛にて下車、夫れより愛知川の清流に沿ふて溯ること約三里、神崎
郡山上より愛知川の左岸に渡らは既に夫れなり、行路平坦にして八日市
より人車通じ、秋季觀楓の季に至れば乗合自動車通ず、汽車乗車賃金大

阪より新八幡まで三同片道一圓〇九錢（此哩程五十四哩）新八幡より八
日市口迄哩程五哩四にして乗車賃金片道十九錢、八日市より永源寺迄人
車賃金五十錢、自動車乗合一人前三十錢、汽車乗車時間は大阪より八幡
まで普通列車なれば約三時間、急行なれば約二時間半、八幡より八日市
迄二十分餘にて達す、又此途次時間の餘裕あらば八幡驛より八坂神社或
は長命寺の勝を探るか湖南鐵道太郎坊驛（八日市驛の次驛）に下車して
太郎坊に登るもよく、殊に長命寺は琵琶湖中の名區なれば行を別にする
も可ならん、即ち八幡神社は八幡町の北邊なる八幡山の山麓にあり（八
幡驛より八幡町まで約二十丁、人車及び自動車の便あり）八幡社は應神
天皇以下を祀る郷社なりと雖も里人の信仰甚だ厚く殊に西村太郎左衛門
より奉納せる安南船の額は名高し、傳へ曰ふ、元和元年の頃、當町の西

村太郎左衛門安南國に漂流せしが折柄其地に國亂あり太郎左衛門即ち國主の爲めに功をたて遂に一城の主となりしと雖も懷郷の念已み難く正保四年歸國を思ひ立ち船を發するに望み畫工をして惜別の圖を畫かし且つ珍寶奇貨を滿載して長崎に歸りしも我國鎖國の制嚴しく外國に永住せしものゝ上陸を許されざりしより八幡町にある故舊の者を長崎に呼び迎へ當時長崎に來遊せる菱川師宣に囑し己れの乗船を描寫せしめて郷人に托し八幡神社に奉納せしめしもの之れなりと、今は國寶に列せらる、尙當社の祭典は毎年一月十五日に行はれ左義長の儀式は特に名高し、又八幡山は豊臣秀次の居城を築きし處なるも其城地は今僅かに礎石を見るのみ。

長命寺は八幡町の對岸、琵琶湖々邊の奥の島にあり、八幡町の北方より

すれば僅かに一路通すべしと雖も行程遠く迂廻を免れざれば八幡町より舟行によるべし(船賃八錢)寺は聖德太子の開山にして天台宗に屬し、太子自作の千手、十一面、聖の三觀音を安置せる西國三十一番の靈場にして山上三觀音の外國寶に編入せられし佛像佛畫の寺寶尠しく、附近の風光佳なること湖中第一の勝區と稱せらる。

尙汽車守山驛を出で野洲驛を経て八幡に至る途次、俵藤太の故事を以て有名なる三上山は右方の車窓より望むべく其北面に御幸山あり、嘗ては鏡山と稱へ、往昔源義經が陸奥に下らんとする際元服をなし「鏡山いざ立寄りて見てゆかん年經ぬる身は老やしぬると」と詠せし處にして近く大正六年の秋、此地附近にて陸軍特別大演習を行はれし時、畏くも大元帥陛下の御野立所と定められしより御幸山と名けらる、其他此沿線及

び八幡驛以北には探らば名蹟多きも、本稿は永源寺の觀楓を主としたれば茲には云はず。

淡路の風光

淡路は本土より離れて別に一島をなし、鐵道の布設されたるもの未だ無く、一見交通の便充分ならざるが如きより世人の多くは其地の勝を説かず幾多の名勝記遊覽案内記の如きすら殆んど此地を没却せるが如き感あるも然も地は大坂灣口を擁して西に風光美を以て聞へし瀬戸内海を控へ周圍三十六里の隈海至る處勝區あり、殊に其名蹟に至つては天の浮橋の二神降臨しましたる神話に初まり爾來諸種の傳ふる處甚だ多きのみならず、又交通の便は大坂方面よりよく一日の行程を以てすべきものあれ

ば其凡ての名蹟勝地は他日淡路めぐりと題して盡すこととし、茲には其日歸りによる地區に就いて主なるものを述べん。

大阪方面より一日の行程としては岩屋及び洲本附近なれども岩屋は「西」の部「人丸詣で」の項に述べたれば茲には云はず（三一八頁参照）即ち洲本附近の行程に就いて述べんに行路は南海鐵道により淡輪驛下車、同地より汽船によれば此時間約三時間にして洲本港に達す、南海鐵道にては船車連絡乗車券發賣せり、片道七十三錢、往復一圓二十六錢、但し淡輪洲本間の汽船は一日三回の往復あるのみなれば之れが接續の關係上難波（大阪）發午前七時三十分の電車によるが宜しからん、右によれば洲本へ十一時前に着の筈、又大阪より直ちに汽船によるを得べしと雖も約五時間を要し其日歸りとしては到底覺束なし、前夜乗船翌朝目的地に着する

豫定なれば兎も角なれど夫れとて夜中の航路には何等目を慰むべきもの無く、淡輪よりする海上の風光美に及ばざるや勿論なり。連絡船淡輪を發するや既に其眺曠の美を賞するに足るべし、右に泉州の沿岸大湖の如き茅海を長く包んで遙かに大阪港口に接し遠く六甲、摩耶の峻嶺を雲烟の間に望む所、幾多の汽船漁船の來往する様一幅の名畫に譲らず、又左方は深日、谷川の海邊を近く過ぎて大川の岬端に至れば繪の如き友ヶ島の三島由良海狹を扼して浮ぶ風光言語に絶し、其他回顧の名婿なる山水は迎接に殆んど暇なきの感あり、斯くて船は由良港を左手に見て幾許も無く洲本棧橋に着く。

洲本町は蜂須賀氏の家老、福田氏六萬石の舊城下にして其繁華なること全島第一とし、人戸稠密商工業の甚だ盛んなる港邑なり、大濱公園は洲

本港の南方一帯の海濱にして三熊公園とも稱す、其風光の雅なること須磨舞子の勝に譲らず殊に海邊の湖水清冽にして深からざれば、夏時の海水浴に最も適す、洲本城址は其西方にあり舊時福田氏の居城たりし所、之れ又三熊公園の一部たり、附近に老樹多く、壯重なる八幡神社の社殿あり、境域廣く森嚴を極む、此の西方なる翠巒を三熊山と稱へ、元龜天正の昔、脇坂安治の城を築きし所なるより城山の名あり、山は高熊、乙熊、虎熊の三嶺より成るを以て三熊の名之れに出づとか、近時山上を開拓して公園となし、競馬場を設けたり、展望の勝に富むこと云ふ迄もなし、官幣大社伊弉諾神社の攝社なる洲本神社は洲本町の中央に鎮座せり、市杵島姫を祭神とす、神域廣潤と云ふにあらざるも頗る壯重を極め里人の信仰甚だ厚し、毎年秋季三日に亘りて行はる、祭典は當國第一の



大祭と稱す。
 以上は洲本町に於ける主なる名地なれども
 大濱公園より更らに南すること數丁に四洲
 園あり（洲本港より人車十五錢）園は會席
 及び旅館を營業せせる個人の經營になること
 雖も地は海に臨み山を負ひ、奇岩怪礁を控
 へて其風致頗る見るべく、眼界又甚だ展
 て紀泉攝播の四洲を一眸に望むを得べし、
 之れ四洲園の名ある以所なりとか、園内に
 ラジウム含有の炭酸冷泉湧出するあり、之
 れが温浴々場を設けて遊者の入浴に備へ、

巖隙に生簀を設けて鮮魚を放ち遊者の好みに應じて調理する等都人士が
 一日の清遊地として其意を得たり、但し之れ等に要する費用の高低は遊
 者の意にあるや勿論にして茲に明記する限りにあらず、これより西方約
 半町に住吉神社あり、社殿は海に臨みて建ち、巖上の老松之れに覆ひか
 へり甚だ風趣を添ふ。
 更らに洲本町より以西の名蹟を擧ぐれば洲本町より西方約一里半、加茂
 村字内膳なる先山の頂上に千光寺あり、一に清淨皇院と號け當園内の名
 刹とす、登路は南北の二途あり、北に下れば山麓より約一里なる河上村
 の河上神社に賽すべく南路は洲本方面よりの順路なり、河上神社は縣社
 にして土地の土産神なり。
 瑕馭廬島は神話に、天の浮橋の二神が降臨あせられし聖地と傳ふる所

にして當國の南端に孤島をなせる沼島なりと云ひ又た榎列村字幡多なりとも云ひ何れとも定かならざるも沼島には其名蹟として傳ふるものあり又幡多には其聖地なりとて伊弉諾、伊弉冊の兩神を祀れる阜丘あり、沼島は周圍二里餘にして一村をなし、道程は洲本町より灘村字芳野迄約六里、芳野より沼島迄海路二裡半、又幡多迄は洲本町より約四里、因に沼島への途次、加集村字加集（洲本より四里）に至れば淳仁天皇及び御生母の神靈を鎮めませし淡路御陵あり。

福良町は洲本町より西方五里三十二丁にある港邑にして福良灣に臨み、灣内の廣袤東西二十町南北十二町其灣口に畑島あり、其狀一湖水をなして風景甚だ佳なり、鳴戸崎は福良町の西方一里餘にあり、岬狀をなして海中に斗出すること十五町、近く阿波の絲崎と相對して海峽をなす所は

所謂鳴戸海峽にして、其觀潮は此地よりするを最もよしとす。

伊弉諾神社は洲本より西北三里半、多賀村にあり、官幣大社にして早良親王を祀る、神域廣大にして社殿の結構甚だ壯嚴を極め、親王の御墓は此の東南五町餘の地にあり、五色の濱は之の西方約十丁なる郡家より南方約二里に亘る海岸にして播摩灘を隔て、遙かに小豆島を望み、其風光の美なること古來名あり。

能勢の妙見参り

能勢の妙見は北攝の高峰、妙見山の山頂にあり、地は大阪府の管轄にして豊能郡東郷村に屬す、大阪より阪神急行電車寶塚線によりて、能勢口停留場に下車、同停留場前より能勢電軌により一の鳥居停留場に下車、

更らに山麓迄坂路一里餘（人車及馬車の便あり、馬車賃一人前平時は三十錢の規定）山麓より妙見本殿迄峻嶮なる山路十八丁、一の鳥居より山麓に至る途次、隨處に散在せる茶店或は旅舎等に草履、草鞋、竹杖等を嚮げるを以て靴下駄等の類を預け草履或は草鞋によりて登山するが宜しからん。

妙見堂は長元年間多田滿仲三代の嫡孫源頼國の造營せし小祠に過ぎずして爾來邑主能勢家の鎮守たりしが慶長年間、其二十三代の嫡孫頼重の頃、日蓮宗中興の日乾上人此地を遊化して妙見大師の像を授與し之れを當山に安置せしめしに靈顯殊の外著現なりしかば能勢家の領内の者等は深く上人に感得して日蓮宗に歸依し、遂に法華の勸請として世人の信仰を廣く集むるに至りしなりと、因みに當山の安置せる本尊は世に日本三

妙見の一と稱へ又た別に日蓮上人自作にかゝる日蓮大士黄金座像の寶物あり、本殿は天明七年能勢家三十代頼直朝臣の再建せしを明治二十八年現鑿日懿上人の發意により信徒の淨財を得て改造す、其結構宏大と云ふべからざるも甚だ壯重にして四時參詣者多く、年中午の日を以て縁日とし毎年舊曆の二月及び十一月の初午の日に法會を執行する外、四月二十日には勝利祭、七月の土用入りより三日間は寶物蟲拂會、八月一日には八朔會、舊曆十月十二日には宗祖會式を初め歲越星祭會、大歲會等ありてこれ等の日は賽者特に夥し。

途次沿道の名蹟中、阪神急行電車線に屬するものは前に「箕面線めぐり」の項に述べたれば同項參照、又能勢電軌沿線にては絹延橋停留場の東方二町に仁徳天皇七十九年の創建にかゝる穴織神社あり、一に伊居多神社

と稱へ應神天皇の御宇異國より來朝せし穴織姫を祀る、又其社務所の南方に往昔源賴光が大江山の怪賊退治の節手植せしと云ふ賴光の松あり牡丹を以つて名ある木部は同停留場より三町、鼓ヶ瀨は鼓ヶ瀨停留場前にある多田川の急湍にして古往は十餘丈の飛瀑懸崖にかゝしが多田院造營の際用石を鑿取せしより原形を失ひしと云へど此附近甚だ景勝に富み一に北舞の耶馬溪とすら傳へらる、殊に夏時最もよく此の下流なる猪名川は鮎を以て名高し、曹洞宗の名刹恩慈寺は同停留場の東方四町、和泉式部の墓は同五町、多田滿仲公を祀れる多田院は多田停留場より四町、尙同停留場より西北方二里に屏風岩の奇勝あり、平野鑛泉の湧出地にして三ツ矢サイダーの製産地は平野停留場前、斯くして同軌道の終點一の鳥居停留場に至れば鶴林山大昌寺は約十町、賴光禪尼寺は約十四町、忠

孝山小童寺は一里の地にありと雖も、以上は軌道の乗降或は勝探參詣の爲め相當の時刻を要すべきを以て妙見山の參詣を終へ時間の餘裕あらば訪ぬべきか、因みに阪神急行電車大阪初發は午前五時三十分にして、能勢口迄三十分を要すどすれば充分なり又た能勢電軌は能勢口初發午前六時過にして一の鳥居迄十二三分間にて達し、最終一の鳥居發は九時半、阪神急行電車能勢口發大阪行最終午後十一時半と思へば乘遅れる憂なし尤も一泊の豫定なれば妙見山の山麓及び山頂に普通旅館、木賃宿等あり中食又た可、宿料普通七十錢以上、中食半額。

費用 大阪(梅田)より能勢口迄片道十九錢、往復三十七錢、能勢電軌能勢口一の鳥居間片道十四錢、往復二十七錢なれども、途中下車の要なしとなれば大阪(梅田)一の鳥居間連絡乗車券によるべし、其賃金片

道三十二錢、往復六十三錢、山麓迄自動車片道四十錢、中食五十錢、其他賽錢及び守護札等に若干を要する譯なるが、春秋遊覽季節なれば窮屈なる馬車よりも徒歩にて沿道の風光を觀賞しつゝ、辿るが反つて興深かるべし。

武田尾の靈泉

地は福知山線武田尾驛の西方武庫川の溪流を隔て、對岸にあり、巖石の罅隙より涌出する冷泉にして、之れを温めて浴用とす、泉源は銀龍水と稱へ寛永の昔、武田尾直藏なる樵夫の發見せし處なるを以て其姓を取りて名けしとか、泉質は食鹽性硫酸にして各種の中風、血管の充血に起因する諸症、膽石病、痔疾、諸種の呼吸器病、筋肉又は關節の痲痺質斯各種の神経痛、各種の皮膚病、創傷、梅毒等に特效あるのみならず地は

幽閑にして然も極めて勝景の境なれば四時の保養、殊に夏季の避暑には最も可なり、旅館は他の温泉地と趣を異にし、軒を並べて櫛比したりと云ひ難きも設備は殆んど整ひ、都人士と雖も不便を感せしめず、時には阪神地方より阿嬌を拉して來るもの、或は低酌淺唱以て保養中の保養を行ふものあり一日の遊として可、更らに奄留數日にして入浴の餘暇、附近に散在せる無名の勝地を探るも妙、殊に武庫川の溪流、此地を中心として上は福地山線三田驛附近より下流生瀬に至る區間に無數の奇巖怪石蟠屈し急端奔流之れに激して珠と碎け雪と飛ぶの奇勝は近畿稀に見る處世に之れを溝瀆と稱せり。

物價は廉ならざるも又た強ち高しと云ふべからず、中食、會席等は旅館にて行ひ、普通は五十錢以上八十錢位、宿泊料は一圓二十錢以上、汽車

は大阪より同驛迄二十哩八、此の乗車賃金片道四十三錢。
尙、晩春より夏季の候なれば此地に至る途次、生瀬驛に下車して其附近
にある鮎瀧の勝を探るも可なり、但し生瀬驛にて下車するとならば生瀬
武田尾間の乗車券は買次ぐことゝすべし、大阪生瀬間十六哩八、此賃金
片道三十五錢、生瀬武田尾間四哩、此賃金片道九錢。
鮎瀧は之又た武庫川の流域にありて水中巖史らに奇岩を重ね急湍之れに
激して瀑布と化し雲烟と飛散するの状頗る奇觀を呈し、武庫川名物の鮎
は初夏の候此の附近に於て最も多く漁す、又此の水上に突起せる巨巖あ
り、高臺岩と稱へ四邊の觀勝は頗る可なり。

著者曰 本編に洩れたる名蹟勝地は更らに他日改版の際、補遺に加入する筈
なれば讀者諸君中若しお氣付きの方あらば御指導煩はしたし、本編は名あつ
て實なき名所よりも寧ろ名無くして實ある地を努めて紹介したき本意なれば
なり。

尙、著者は不日更らに近畿の名蹟勝地を再探し本編の姉妹編として

「近畿名所見物ありのまゝ」と題し名蹟の存廢或は勝地を稱する地の實際の風光、
其地物價の高低を赤裸々に述べて以て遊者の一餐に供する筈なり、發行の上
は外編同様御好評あらんことを豫め希ふ。

御陵巡拜

御陵の所在地

御陵巡拜のこと素より遊覽觀賞と同日に論ずべからざるは勿論なりと雖も之又た旅程に屬すれば近畿地方に散在する各所を大阪より一日の行程として述べることにしたり、即ち其本記に入るに方つて先づ歴朝の御陵墓と所在の地を記し奉らん

神武天皇	畝傍山東北陵	奈良縣高市郡白檀村大字洞
綏靖天皇	桃花鳥田丘上陵	同 同 同 四條
安寧天皇	畝傍山西南御陰井上陵	同 同 同 吉田
懿德天皇	畝傍山南織紗溪上陵	同 同 同 池尻

孝明天皇	掖上博多山上陵	同 南葛城郡三室村大字博多山
孝安天皇	玉手丘上陵	同 掖上村大字玉手
孝靈天皇	片丘馬坂陵	同 北葛城郡王寺村大字王寺
孝元天皇	畝池島上陵	同 高市郡白檀村大字石川
開化天皇	春日率川坂上陵	同 奈良市油坂町字山ノ寺
崇神天皇	山邊道勾岡上陵	同 磯城郡柳本村大字柳本
垂仁天皇	菅原伏見東陵	同 生駒郡都述村大字尼ヶ辻
景行天皇	山邊道上陵	同 磯城郡柳本村大字澁谷
成務天皇	狹城盾列池後陵	同 生駒郡平城村大字山陵
仲哀天皇	惠我長野西陵	大坂府南河内郡藤井村大字岡
應神天皇	惠我藻伏岡陵	同 古市村大字譽田
仁德天皇	百舌鳥耳原中陵	同 泉北郡軸松村
履仲天皇	百舌鳥耳原南陵	同 上石村大字上石津

敏達天皇	欽明天皇	宣化天皇	安閑天皇	繼體天皇	武烈天皇	仁賢天皇	顯宗天皇	清寧天皇	雄略天皇	安康天皇	允恭天陵	反正天皇
河内磯長中尾陵	檜隈坂合陵	身狹桃花鳥阪上陵	古市高屋丘陵	三島藍野陵	傍立磐坪北陵	埴生坂本陵	傍立磐坪立南陵	河内坂門原陵	丹比高鷲原陵	菅原伏見西陵	惠我長野北陵	百舌鳥耳原北陵
大阪府南河内郡磯長村大字太子	奈良縣高市郡阪谷村大字平田	奈良縣高市郡白檜村大字鳥屋	同 南河内郡古市村大字古市	大阪府三島郡三島村大字太田	奈良縣北葛城郡志都美村大字今泉	大坂府南河内郡藤井寺村大字野市	奈良縣北葛城郡下田村大字北今市	同 西浦村大字西浦	大坂府南河内郡高鷲村	奈良縣生駒郡伏見村大字寶來	同 南河内郡道明寺村大字國府	同 同 向井村大字中筋

元明天皇	文武天皇	持統天皇	天武天皇	弘文天皇	天智天皇	齊明天皇	孝德天皇	皇極天皇	舒明天皇	推古天皇	崇峻天皇	用明天皇
佐保山東陵	檜隈安古岡上陵	同	檜隈大内陵	長等山前陵	山科陵	越智崗上陵	大坂磯長陵		押坂内陵	磯長山田陵	倉梯岡上陵	河内磯長原陵
奈良市奈良坂町	同 同 阪合村大字栗原	同 同 同	奈良縣高市郡高市村大字野口	滋賀縣大津市別所字南淨慶	京都府宇治郡山科村大字御陵	奈良縣高市郡越智岡村大字車木	大阪府南河内郡山田村大字山田	福岡縣	奈良縣磯城郡城島村大字忍阪	大坂府南河内郡山田村大字山田	奈良縣磯城郡多武峰村大字倉橋	同 同 大字春日

元正天皇	佐保山東陵	同	同
聖武天皇	同	同	同
淳仁天皇	淡路	同	添上郡佐保村大字法蓮
稱徳天皇	高野	同	兵庫縣三原郡賀集村大字賀集
光仁天皇	田原東	同	奈良縣生駒郡平城村大字山陵
桓武天皇	柏原	同	同 添上郡田原村大字日笠
平城天皇	楊梅	同	京都府紀伊郡堀内村大字堀内
嵯峨天皇	嵯峨山上	同	奈良縣生駒郡都跡村大字佐紀
淳和天皇	大原野西嶺上	同	京都府葛野郡嵯峨村大字嵯峨
仁明天皇	深草	同	乙訓郡大原野村大字大原野
文徳天皇	田邑	同	同 紀伊郡深草村大字深草
清和天皇	水尾山	同	同 葛野郡大秦村大字中野
陽成院天皇	神樂岡東	同	同 嵯峨村大字水尾
		同	同 京都市上京區淨土寺町

孝光天皇	後田邑	同	葛野郡花園村大字字多野
宇多天皇	大内山	同	同 同
醍醐天皇	後山科	同	宇治郡醍醐村大字醍醐
朱雀院天皇	醍醐	同	同 同
村上天皇	村上	同	葛野郡花園村大字字多野
冷泉院天皇	櫻本	同	同 京都市上京區鹿ヶ谷町字北野
圓融天皇	後村上	同	同 葛野郡花園村大字字多野
華山院天皇	紙屋上	同	同 衣笠村大字大北山
一條院天皇	圓融寺北	同	同 衣笠村大字大北山
三條院天皇	北山	同	同 同
後一條院天皇	菩提樹院	同	同 京都市上京區吉田町字神樂岡
後朱雀院天皇	圓乘寺	同	同 葛野郡花園村大字谷口
後冷泉院天皇	圓教寺	同	同 同

後三條院天皇	圓宗寺陵	同	同
白河院天皇	成菩提院陵	同	紀伊郡竹田村
堀河院天皇	後圓教寺陵	同	葛野郡花園村大字谷口
鳥羽院天皇	安樂壽院陵	同	紀伊郡竹田村大字内畑
崇徳院天皇	白峰陵	同	香川縣綾歌郡松山村大字青海
近衛院天皇	安樂壽院南陵	同	京都府紀郡竹田村大字内畑
後白河院天皇	法住寺陵	同	京都市下京區三十三間堂畔
二條院天皇	香隆寺陵	同	葛野郡衣笠村大字小北山
六條院天皇	清閑寺陵	同	京都市下京區清閑寺山字歌の中山
高倉院天皇	後清閑寺陵	同	同
安德天皇	阿彌陀寺陵	同	山口縣下の關市阿彌陀寺町
後鳥羽院天皇	大原陵	同	京都府愛宕郡大原村大字大原
土御門院天皇	金原陵	同	乙訓郡海印寺村大字金原

順徳院天皇	大原陵	同	愛宕郡大原村大字大原
仲恭天皇	九條陵	同	紀伊郡深草村大字福稻
後堀河院天皇	觀音寺陵	同	京都市下京區今熊野町字泉山
四條院天皇	月輪陵	同	同
後嵯峨院天皇	嵯峨南陵	同	葛野郡嵯峨村大字天龍寺
後深草院天皇	深草北陵	同	紀伊郡深草村大字深草
龜山院天皇	龜山陵	同	葛野郡嵯峨村大字天龍寺
後宇多天皇	蓮華峰寺陵	同	同 大字上嵯峨
伏見院天皇	深草北陵	同	紀伊郡深草村大字深草
後伏見院天皇	同	同	同
後二條院天皇	北白河陵	同	愛宕郡白川村大字追分
花園院天皇	十乘院上陵	同	京都市上京區粟田口町
後醍醐天皇	塔尾陵	同	奈良縣吉野郡吉野村大字吉野山

皇は四十九代稱徳天皇に重祚遊ばされしなれば茲には齋明、稱徳の御名を止む、又以下の行程には讃岐の白峰御陵、下の關の阿彌陀寺御陵は大坂より一日を以て到底參拜すべくもあらねば省くことゝしたり。

第一日の巡拜

順拜豫定

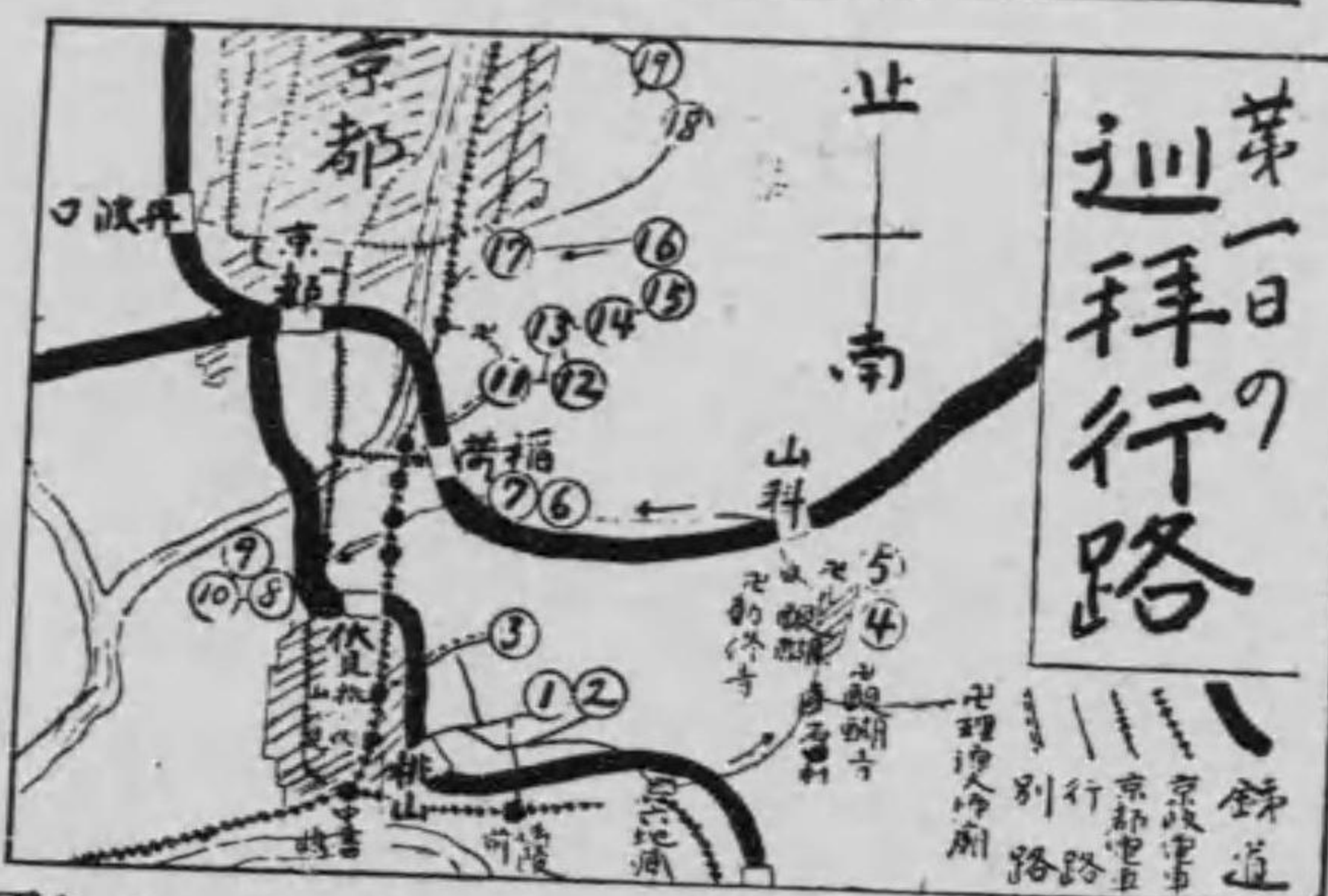
(頭書の數字は巡拜の順序)

- 一 明治天皇御陵
- 二 照憲皇太后御陵
- 三 桓武天皇御陵
- 四 朱雀天皇御陵
- 五 醍醐天皇御陵
- 六 仁明天皇御陵
- 七 深草天皇御陵
- 八 近衛天皇御陵
- 九 鳥羽天皇御陵
- 一〇 白河天皇御陵

- 一一 崇徳天皇御陵
- 一二 仲恭天皇御陵
- 一三 後西院天皇御陵
- 一四 靈光天皇御陵
- 一五 東山天皇御陵
- 一六 中御門天皇御陵
- 一七 櫻町天皇御陵
- 一八 四條天皇御陵
- 一九 後水尾天皇御陵
- 二〇 明正天皇御陵
- 二一 後光明天皇御陵
- 二二 桃園天皇御陵
- 二三 後櫻町天皇御陵
- 二四 後桃園天皇御陵
- 二五 光格天皇御陵
- 二六 仁孝天皇御陵
- 二七 孝明天皇御陵
- 二八 後堀河天皇御陵
- 二九 後白河天皇御陵
- 三〇 高倉天皇御陵
- 三一 六條天皇御陵

歴朝の御順序によらず行程の便宜によりたりとは云へ御聖徳普ねかりし

第一日の 巡拜行路



明治大帝の御陵より拜すべきは大正の聖世に生を享けし國民の行ふべきことにこそ、即ち第一日の行程として先づ伏見桃山御陵に向はんか。

京阪電車によりて天満橋(大阪)を早朝出發、中書島停留場にて宇治行に乗換(但直通電車もあり)御陵前停留場に下車すれば北方數丁にて御陵前に至る、御陵は大正元年九月十五日と申すに長くも明治大帝の御聖靈を鎮めませし聖地にして上圓下方の三段にしつらへ、圓塚の高さ二十一尺と洩れ承はる、御玉垣を

二重に圍らし、内部のは御石柵を前面にし他の三面は石垣の土疊を築き此の東西の長さ五十間、南北の長さ五十五間、御正面には金の御紋をつけたる唐銅の御陵あり、又外面の御玉垣は前面御門の兩側は石の御柵を他の三面は石の御屏を以てし、此の東西の長さ七十間、南北八十五間との御事なり、御陵前に額づきて陛下の御聖徳と御英邁の御様を偲び奉れば崇高の情胸に湧きて只だく恐懼に絶わさるの感あるべし、拜し終りて御陵前を東に下れば約三丁に照憲皇太后を祀きまつれる伏見桃山東陵あり、御陵の御規模は伏見桃山御陵と同じけれども稍小さく、御圓塚の高さ十五尺、内部の御玉垣四十間に四十五間、外部の御玉垣は五十五間に七十間なりと申す。

明治大帝に仕へまつりて恪勤怠らず赤誠を捧げて武人の典型と傳へら

れし乃木希典大將の英靈を祀りし乃木神社は伏見桃山東御陵の南西數丁にあり、兩御陵を拜して乃木神社に詣で、其社畔を北に向ふこと更らに數丁に桓武天皇の柏原御陵あり、天皇は延暦二十五年三月崩御あらせられ葛野郡宇多野に鎮めませしも同年十一月今の地に移し奉ると、柏原御陵に參拜して里道を東にとり、街道に出で、右方に向ひ、六地藏より東方に進むこと十數丁にして醍醐に至れば朱雀天皇の醍醐御陵、其北方に近く醍醐天皇の後山科御陵あり、六地藏より醍醐御陵に至る途次、石田村より右折すれば醍醐寺、夫れより更らに東し、急阪を辿りて約二十町の地の上醍醐の御陵あり、之れ白河天皇の中宮及び皇子内親王、令子内親王の御陵墓なりと申す、理源大師の廟は之れより近し。歸路を山科驛にとり、醍醐天皇の山科御陵より山科驛に至る途次、隨心

院、勸心寺の二名刹あり、山科驛より汽車によりて稻荷驛に向ふか、或は徒歩街道を辿りて西方に向ふかは隨意(但人車通ず)山科驛より稻荷驛迄鐵路の哩程三哩(乗車賃金五錢外に通行税一錢)徒歩なれば稻荷に至る途次(山科よりは約二里)深草村に仁明天皇の深草御陵及び其附近に後深草天皇、伏見天皇、後伏見天皇、後小松天皇、稱光天皇、後土御門天皇、後柏原天皇、後奈良天皇、正親町天皇、後陽成天皇等の神靈を鎮みまつる深草北御陵(深草法華堂)あり、稻荷驛よりは南方約二十丁、若し醍醐方面に向はず桓武天皇の柏原御陵よりとなれば京阪電車伏見停留場より乗車して師團前停留場に下車せば東方約十丁にて至る、尤も此附途に名蹟の多々あるは「東」の部「宇治まで」及び「北」の部「伏見まで」の部に述べたるが如し。(二三二頁、四五八頁參照)

夫れより道を西にとり、鐵道線路を横切り、尙も西して京阪電車師團前停留場を過ぎて更らに奈良線を横ぎり竹田に至れば(此の道程約二十丁)近衛天皇の安樂壽院南御陵、鳥羽天皇の安樂壽院御陵、白河天皇の成善提院御陵に參拜、之れより再び京阪電車師團前停留場に引つ返すか或は附近を通する京都電鐵による可、京阪電車なれば東福寺停留場、京都電鐵なれば札の辻停留場迄乗車(京阪電鐵なれば乗車の際は近けれど下車後目的地迄遠し)因みに前記稻荷驛は有名なる伏見稻荷の所在地又た東福寺は古來兆殿司の故事を以て名高く、通天橋の紅葉を以て知らるゝ名所なり。其東福寺の山内を東に、稻荷の祠畔を山道に辿れば幾許もなく右方に崇徳天皇中宮を鎮めたる月輪南陵、更らに進みて仲恭天皇の九條御陵に詣で、元に戻りて稻荷の小祠より北に出で、九條兼實の廟

前を過ぎ、十數丁にして四條天皇、後水尾天皇、明正天皇、後光明天皇後西院天皇、靈光天皇、東山天皇、中御門天皇、櫻町天皇、桃園天皇、後櫻町天皇、後桃園天皇等十二帝の月輪御陵、及び光格天皇、仁孝天皇の後月輪御陵は何れも九重の御石塔を以て建つ、又之れより更らに歩を進むること二三丁にして孝明天皇の後月輪南御陵、又其北方丁餘に後堀河天皇の觀音寺御陵(兩御陵の中間に英照皇太后の御陵あり)を拜するを得べし、之れより道を西北方にとりて下山すれば途次に今熊野、劔宮又其西方に那須野與一の墓、今熊野の南方に悲田院等、後堀河天皇の御陵より東方に、山路をたれば込石越街道にして高倉帝の御陵所在地なる歌の中山に達すべしと雖も勝手の知りたる案内者無くては難かるべし、故に前記の如く劔宮社畔より下山の途につき、道を右方にとりて大佛

瓦町に出で、三十三間堂寺畔に至りて後白河天皇の法住寺御陵を参拜し
若し日没迄時間の餘裕あらば附近に散在せる三十三間堂、博物館、豊國
神社、大佛殿、妙法院、智積院等の名社寺等を参拜すべく、また餘裕な
くば新日吉社より東へ數十階の石燈を辿りて阿彌陀ヶ峰の豊太閤廟に参
拜し、之れより東に間道を傳ひて澁谷越に出で、花山火葬場の東方より
左折して清閑寺に詣で高倉天皇の後清閑寺御陵、六條天皇の清閑寺御陵
を拜して歸路を清水寺の方面に取るべしと雖も阿彌陀ヶ峰以東は閑寂な
る山路なれば夕陽斜に傾きて以後の参拜は考へ物なるべし、尤も阿彌陀
ヶ峰より間道を辿れば清閑寺を経て清水寺まで山路約二十丁内外。
以上を以て一日の行程に適度ならんも行程を急ぎ最終の清水寺より尙附
近の名蹟勝地を見物し得る程の時間に餘裕を存するようせば可ならん、

但し此の行程電車或は汽車の便をかるゝと否とによりて多少の相違はあれ
ども徒歩約四里と見ば大差なし。

第二日の巡拜

巡拜豫定

(頭書の數字は巡拜の順序)

- | | | | |
|---|---------|----|---------|
| 一 | 花園天皇御陵 | 九 | 花山天皇御陵 |
| 二 | 天智天皇御陵 | 一〇 | 三條天皇御陵 |
| 三 | 弘文天皇御陵 | 一一 | 二條天皇御陵 |
| 四 | 冷泉天皇御陵 | 一二 | 後朱雀天皇御陵 |
| 五 | 陽成天皇御陵 | 一三 | 後冷泉天皇御陵 |
| 六 | 後一條天皇御陵 | 一四 | 後三條天皇御陵 |
| 七 | 後二條天皇御陵 | 一五 | 一條天皇御陵 |
| 八 | 堀川天皇御陵 | 一六 | 宇多天皇御陵 |

- 一五 光孝天皇御陵
- 一六 村上天皇御陵
- 一七 圓融天皇御陵
- 一八 文德天皇御陵
- 一九 後宇多天皇御陵
- 二〇 嵯峨天皇御陵

- 二一 清和天皇御陵
- 二二 後龜山天皇御陵
- 二三 龜山天皇御陵
- 二四 後嵯峨天皇御陵
- 順德天皇御陵
- 後花園天皇御陵

第一日の巡拜に引續き、京都の東山より初む、大阪より京都迄は前日と同様、京阪電車により三條の終点に下車するを便とす、此の乗車賃金片道四十三錢、往復七十八錢、天滿橋より京都迄急行電車あり此の時間五分餘。

京阪電車三條終点にて下車、直路東に向ふこと約十丁、應天門筋より道を南にとり栗田口の青蓮院に至れば其背後の山上に花園天皇の十樂院上



御陵あり、佛光寺廟所、栗田神社等は北方に近く智恩院、圓山公園は南方に連り、往昔田村丸將軍の靈を鎮めたりと云ふ將軍塚は栗田神社前々の山路を南に登るべしと雖も之れ等は行を更めざれば時間の餘裕なからん。

十樂院上御陵參拜後青蓮院の門前を東方に向ひ京津電車應天門停留場より大津行電車によりて御陵停留場に下車、それより約十丁の地にある天智天皇の山科御陵に參拜、再び東行の京津電車により長等公園停留場に下車、道を北にとり三井寺山下を過ぐれば弘文天皇の

長等山前御陵に達す、參拜後三井寺に賽し或は湖岸の風光に暫し憧がる
もよし、夫れより西行の同電車により三條蹴上げに下車、附近に京都
名所の一と數へらるインクラインあり、停留場の東方より運河を東に渡
り、一路右方の街道を辿りて北に進むこと數丁にして南禪寺山門前に出
で、其近隣には紅葉を以て名高き永觀堂、其東面には若王子、大豐神社
等あれども若王子以下は岐路に亘るを以て之れに賽するに否とは隨意と
し、永觀堂前を尙も東行し、靈鑑寺、安樂院等二字の門前を過ぎ鹿ヶ谷
町に至れば冷泉天皇の櫻本御陵あり、蹴上げ停留場より道程約二十町、
人車を賃すれば三十錢以上を要するならん、然も京都の人車は概して速
歩ならざれば徒歩するの勝れるを覺ゆ。之れより尙も東に向へば數町に
して法然院、更らに約十町にして銀閣寺あり、されど御陵巡拜とならば

道安樂寺門前に戻りて西行し、幾許も無く二路に岐れたるを右方にど
り直路眞如堂の其脊に出で、東北院寺畔に至りて陽成天皇の神樂岡御陵
更らに進みて後一條天皇の菩提樹院御陵に達す、吉田神社、宗忠神社は
其西方に近く、社前を過ぎ、帝國大學の東方を北に廻れば、後二條天皇
の北白河御陵あり。
以上を以て京都市の東方にある御陵の巡拜を終へし譯なるを以て大學校
の北方を直路西に向ひ、出町橋の西方より京都市營電車により千本通り
行電車によりて西行し、千本今出川停留場に下車、同電車は御所の北方
を通ずるものにして寺町今出川停留場を發すれば間も無く左手の車窓よ
り其御屋根を拜するを得べし、又電車の右方には平安義會、同志社女學
校、京都教育會、圖書館、華族會館等あるべし。

千本今出川停留場より道を西にとり北野天満宮を西に廻り其社前を過ぎ
て北に向ふこと五町に堀川天天の後圓教寺御陵あり之れより道を戻り北
野天満宮の西方を一路北に向ふこと八町に花山天皇の紙屋上御陵あり、
此所より西北方に道をとり衣笠山の東北麓に至れば三條天皇の北山御陵
同く東南方に二條天皇の香隆寺御陵（北山御陵より十數町）又同く西腹
に後朱雀天皇の圓乘寺御陵、後冷泉天皇の圓教寺御陵、後三條天皇の圓
宗寺御陵の三陵何れも同一の御場所にて、夫れより二三丁を隔て、一條天
皇の圓融寺御陵、衣笠山の西方に嶺を連ねたる大内山の山上に宇多天皇
の大内山御陵、其御陵前を右にとり仁和寺の西方なる宇多野村に至れば
光孝天皇の後田邑御陵、夫れより約八丁に村上天上の村上の御陵、又數
丁に圓融天皇の後村上御陵、十數丁に文德天皇の田邑御陵等鎮まり、尙

之れより西すれば後宇多天皇の蓮華峰寺御陵、嵯峨天皇の嵯峨山上陵、
清和天皇の水尾御陵（愛宕山の南麓にして嵯峨驛より約二里）後龜山天
皇の嵯峨小倉御陵、龜山天皇の嵯峨御陵、後嵯峨天皇の嵯峨南御陵等を
拜して嵯峨驛より乗車して京都驛に出で東海道線に乗換へて大阪に歸着
此日の徒步行程約六里半。
尙京都以北の大原村に後鳥羽天皇、順德天皇の大原御陵、山田村に後花
園天皇の後花園御陵あり、大原御陵迄京都市より往路約四里、又花園御
陵は道程遠く又山路ありて人車其半を通じ難ければ、一日の旅程として
覺束なからん。

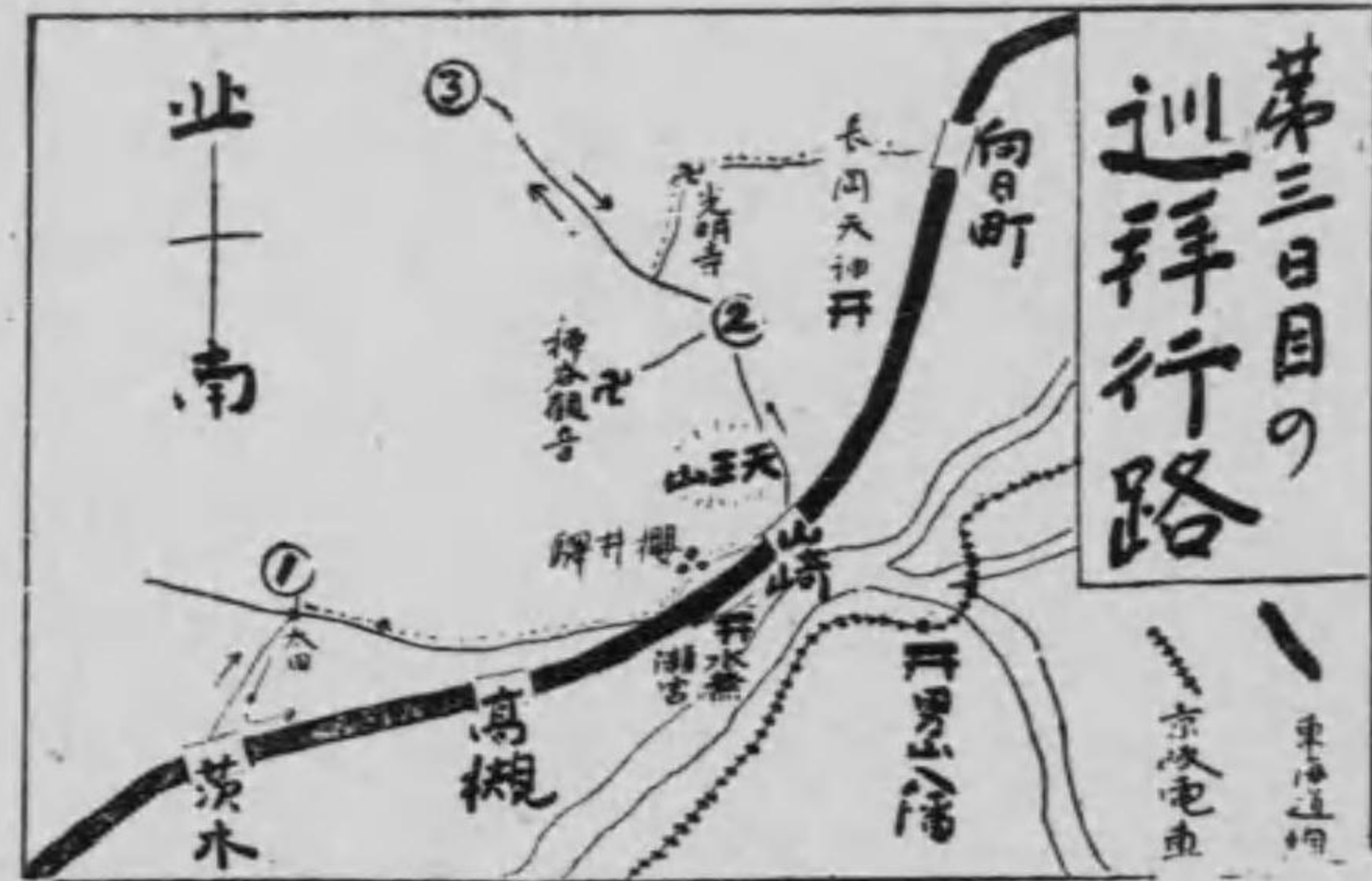
第三日の巡拜

巡拜豫定

(頭書の数字は巡拜の順序)

- 一 繼體天皇御陵
- 二 土御門天皇御陵
- 三 淳和天皇御陵

大阪驛より東海道線より列車により茨木驛に下車、驛前を東に茨木町に入り、其北端の里道を北に西河原村を過ぎ十日市より右折して太田村に至れば繼體天皇の三島藍野御陵に達す、茨木町より約一里、人車通ず賃金片道三十五錢内外、往復五十錢内外、參拜後再び茨木驛に戻り、上り列車によりて、山崎驛に下車、大阪より茨木迄哩程九哩二、此賃金通行税別にて十七錢、茨木より山崎迄八哩八、此賃金通行税別にて十五錢、



山崎驛に下車して天王山の東麓を廻り北にすること約一里海印寺村字金ヶ原に至れば、土御門天皇の金原御陵、之れより道を西北にとり、奥海印寺村より里道を傳ふて西北に向ふて三里餘に淳和天皇の大野原西横上御陵に達す、而して此の兩御陵參拜の後、大野原を過ぎて向日町驛に至り、同驛より乗車して大阪に歸着するものにして、此行程約九里(往復の道路なり)其半以上は車馬の便あり、尙此の途次の附近に櫻井の驛、長岡天満宮、粟生光明寺、十輪寺、花の寺等の名蹟名刹あり、

時間の餘裕あれば訪ねるも可。(四一五頁参照)

第四日の巡拜

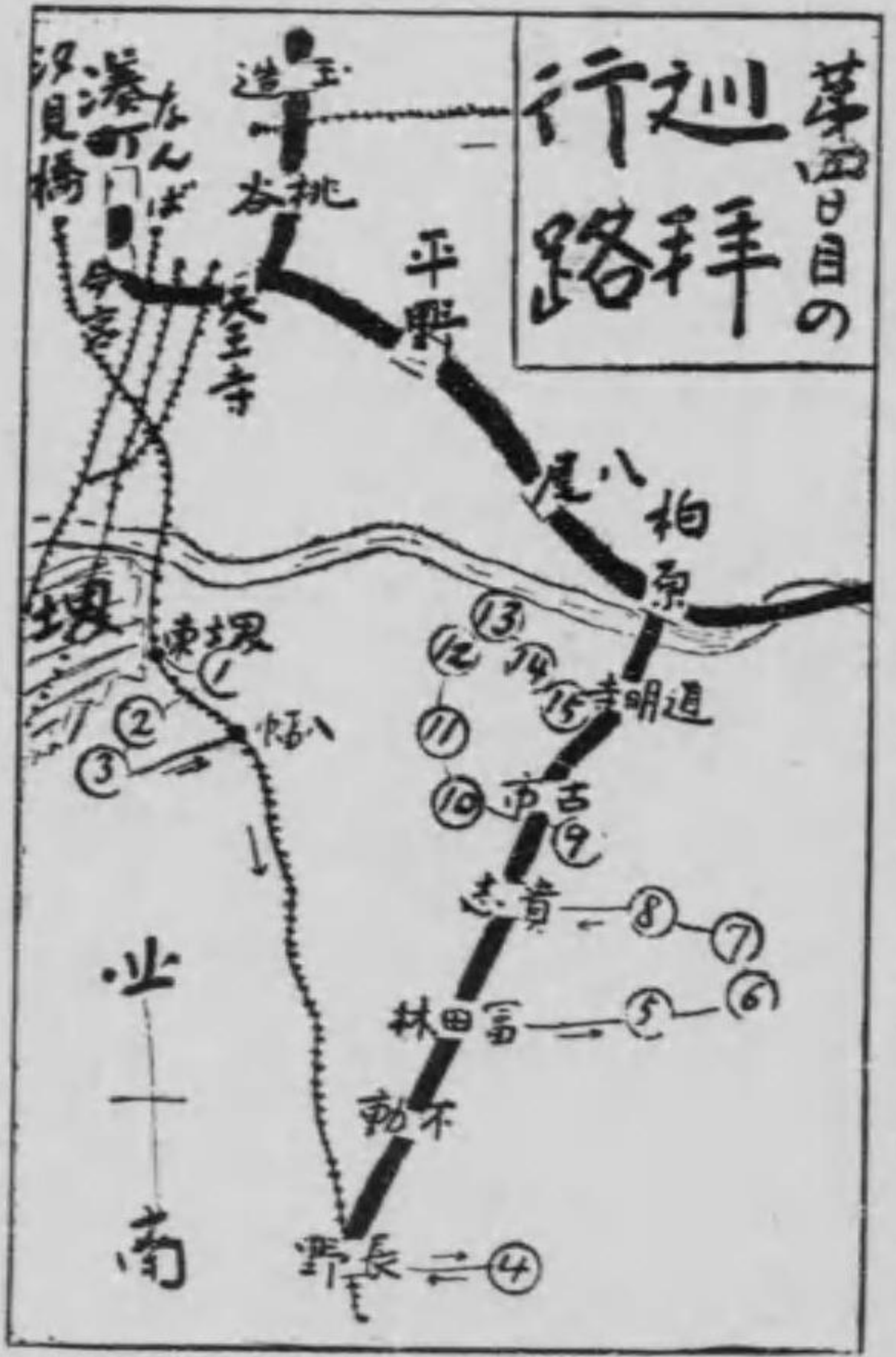
巡拜豫定

- 一 反正天皇御陵
- 二 仁徳天皇御陵
- 三 履仲天皇御陵
- 四 後村上天皇御陵
- 五 敏達天皇御陵
- 六 推古天皇御陵
- 七 孝徳天皇御陵
- 八 用明天皇御陵

- 九 安閑天皇御陵
- 一〇 清寧天皇御陵
- 一一 仁賢天皇御陵
- 一二 仲哀天皇御陵
- 一三 雄略天皇御陵
- 一四 應神天皇御陵
- 一五 允恭天皇御陵

(頭書の数字は巡拜の順序)

巡拜路



沙見橋(大阪)より高野電車に乗る乗車券は長野驛迄(片道通行税共三十
六錢)を求め途中堺東驛にて下車、高野電車は堺東、住吉東及び長野
驛に限り途中下車随意。

天皇の百舌鳥耳原中御陵(一に大仙御陵と申す)更らに道を南西に辿る
こと十數丁に履仲天皇の百舌鳥耳原南御陵あり、此の南方二十町に官幣

沙見橋より乗車して堺東驛に
下車すれば東方に近く反正天
皇の百舌鳥耳原北御陵を拜す
べし、之れより道を南方に辿
ること十數丁、高野電車の線
路を越わ、西百舌鳥村に仁徳

大社大鳥神社あり、其參詣すると否とは各自の隨意とし、履仲天皇の御陵より東に向ひ十餘町にて高野電車八幡驛より乗車し長野驛にて下車、驛の南方より道を東にとり石川の溪流を渡り、長野遊園地の北方を過ぎ一路東に辿ること約半里檜尾山麓の觀心寺の背後に至れば後村上天皇の檜尾の御陵あり、寺は楠公の菩提所たりし處にして境域に楠公の首塚を初め南朝の遺蹟及び舊記遺物等寺寶として傳ふるもの甚だ多く、又長野以東此の附近に名蹟勝地夥しけれども「南」の部「橋本まで」の項に述べたれば茲に云はず。

道を長野驛に戻り、同驛にて接續し東方面に向ふ河南鐵道に乗りて富田林驛に下車（長野より富田林まで五哩、乗車賃金税共十錢）町端を東に約二十五町、磯長村葉室に敏達天皇の河内磯長中尾の御陵、其東方約

十町、山田村に至れば推古天皇の磯長山田御陵、其北方約十町に孝徳天皇の大阪磯長御陵、街道を西に約十町に春日村に至れば用明天皇の河内磯長原御陵、又此の西方約八丁に厩戸王子の御墓あり、之れより西方約二十町にして貴志驛に至りて乗車し、古市驛に下車（貴志より古市迄二哩）するか或は徒歩によるかは各自の隨意、徒歩なれば厩戸王子の御墓より數町西方にある岐路を右に辿り古市まで約二里其途次通法寺、壺井八幡、駒ヶ谷大黒等あり。

以上富田林より古市に至る區間、人車通じ難き個所あり、若し人車によるとなれば富田林より敏達天皇御陵までなれば兎も角、其他は所謂拾ひ車にせざるべからず、夫れとても此の附近に車臺多からざるを以て應ずるものあるや否やは疑はし。

古市に至れば町の南端に近く安閑天皇の古市高屋丘御陵あり、之れより西に向ふこと十數町なる西浦村に清寧天皇の河原坂門御陵、其北方約八丁、殆んど古市驛の西方に日本武尊の御陵、尙北方約十町に仁賢天皇の植生坂本御陵、尙北方約十町に仲哀天皇惠我長野西御陵、尙も北方十町に雄略天皇の丹比高鷲原御陵等あり、之れより道を東にとり、岡村にて分岐せる街道を南にすること近く葛井寺あり、葛井寺を過ぎ、東方にとりて譽田に至れば應神天皇の惠我藥伏岡御陵、其北方數町に道明寺天満宮ありて更らに其北方數町に至れば允恭天皇の惠我長野北御陵前に出で允恭天皇御陵に參拜して東に向へば道明寺驛は近し。
以上の行程約六里、長野より觀心寺及び古市附近より道明寺附近に至る區間は人車の便によるも可

第五日の巡拜

巡拜豫定

(頭書の數字は巡拜の順序)

- 一 孝靈天皇御陵
- 二 武烈天皇御陵
- 三 顯宗天皇御陵
- 四 孝照天皇御陵
- 五 孝安天皇御陵
- 六 齊明天皇御陵
- 七 後醍醐天皇御陵

湊町(大阪)驛より關西線に乗車、大阪市の東部よりならば城東線を経て天王寺驛にて乗換るもよし、王子驛にて下車、孝靈天皇の傍丘馬坂御陵は驛の南方約八町、之れより徒歩にて南進すれば道程約三十町に武烈天皇の傍丘磐坏丘北御陵、夫れより尙南行すること十餘町に顯宗天皇の傍丘磐坏丘南御陵あり、王子驛より和歌山線によれば次驛下田驛にて下車

し、鐵道線路の東方に沿ひ北に返ること數町に顯宗天皇の御陵、夫れより武烈天皇の御陵に參拜すべし。

第五日目の
廻拜行路



之れより下田驛にて乗車、次驛高田驛にて櫻井線に乗換へ同沿線の御陵を拜すべしと雖も一日の行程として時間に餘裕なからん、故に先づ南方の地より濟ますべきか、即ち高田驛を出で、新庄驛を過ぎ御所驛に至りて下車、鐵道の西面に沿ひて南すること數丁に孝照天皇の掖上博多山上御陵、之れより里道を東へ約半里にして玉手に至れば孝安天

皇の玉手丘上御陵を拜し、玉手の村落を北に過ぎ、鐵道線路を越へて東西に通ずる街道に出で、一路東に向ふこと二十餘丁、車木村に至れば齊明天皇の越智岡上御陵に達す、同所は壺阪驛の東方に近きを以て御所驛より汽車によるも可なるも、道路平坦にして前御陵より左まで遠しと云ふにあらざれば徒歩或は人車によるも宜しからん。

參拜後壺阪驛より乗車、次驛吉野口驛にて吉野輕便鐵道に乗換へ吉野驛にて下車、吉野川を南に渡り、「東」の部「大和めぐり」の項、百二十八ページに挿入せし吉野觀櫻地圖に示せしが如き行路をとり如意輪堂畔に至り後醍醐天皇の塔尾御陵に參拜。

吉野には南朝の悲史を偲ぶ名蹟多く、殊に陽春の候は櫻花の名所として見るべき箇所又た甚だ尠からざれば低徊一日尙且つ短かきを覺へん、從

つて此日の行程は此處を以て一日の終りとすべきか。

第六日の巡拜

巡拜豫定

(頭書の数字は巡拜の順序)

- | | | | |
|---|--------|---|--------|
| 一 | 平城天皇御陵 | 六 | 聖武天皇御陵 |
| 二 | 成務天皇御陵 | 七 | 元正天皇御陵 |
| 三 | 安康天皇御陵 | 八 | 元明天皇御陵 |
| 四 | 垂仁天皇御陵 | 九 | 光仁天皇御陵 |
| 五 | 開化天皇御陵 | | |

大阪より大阪電気軌道により上本町六丁目停留場發車、西大寺停留場下車、同停留場を出で、北に向ふこと數町、佐紀村に平城天皇の揚梅御陵、其北方に近く成務天皇の狭城盾列池御陵、尙其北方數町に神功皇后



の御陵及び名刹秋篠寺は同西方八丁にあり、又同停留場の西南方約二十丁に安康天皇の菅原伏見東御陵あり、名刹唐招提寺はこの御陵の南方數町に、又西大寺は停留場の西南方に近し。西大寺停留場より再び乗車して奈良に入る、奈良は古都の地とて其探るべき名蹟多きは、「東」の部「奈良の古都」の項に述べたるが如し。(六十四頁参照) 奈良停留場より電車をすて、道を右にとり三

條通りに出で、西に向ふこと二丁（三條通りは奈良驛前の通り筋なり）
郵便局所在の西の辻を北方に入れば開化天皇の春日率川阪上御陵あり、
御陵前を東に突きあたり左折して直路三町、佐保川畔に出で、右に沿ふ
て川を越ね、佐保村を経て田門町に至れば其南端に聖武天皇の佐保山御
陵、其東隣に仁正皇后の御陵、又た北方に多門城址あり、御陵前の道を
東にとりて今在家町に出で、左折して數町に名刹般若寺の門前を過ぎ、
殆んど町端に達せんとする所を左折すれば元正天皇の奈保山西御陵及び
元明天皇の奈保山東御陵相並べり。
之れより道を返して時間に尙充分の餘裕あらば先づ奈良の名蹟勝地を探
るは可なるも先づ三笠、春日の山間なる街道に沿ひて田原村日笠に至り
（奈良より日笠まで一里二十四町）光仁天皇の田原東陵に參拜し、再び

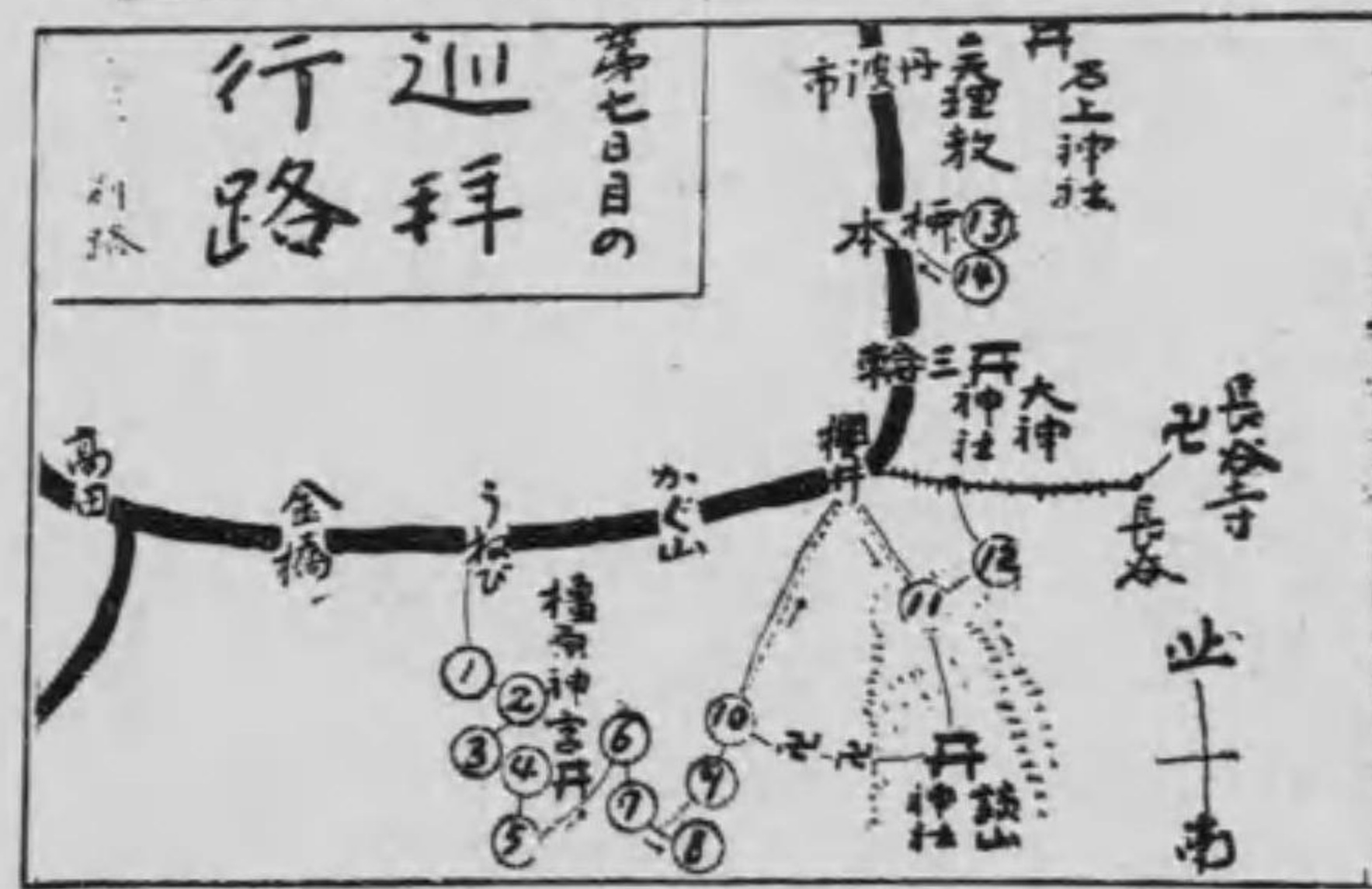
奈良に戻りて諸方を見物するが宜しからん、此途次春日山の山間に鶯瀧
あり。

第七日の巡拜

巡拜豫定

（頭書の數字は巡拜の順序）

- | | | | |
|---|--------|----|--------|
| 一 | 綏靖天皇御陵 | 八 | 文武天皇御陵 |
| 二 | 神武天皇御陵 | 九 | 持統天皇御陵 |
| 三 | 安寧天皇御陵 | 一〇 | 天武天皇御陵 |
| 四 | 懿德天皇御陵 | 一一 | 崇峻天皇御陵 |
| 五 | 宣化天皇御陵 | 一二 | 元明天皇御陵 |
| 六 | 孝安天皇御陵 | 一三 | 崇神天皇御陵 |
| 七 | 欽明天皇御陵 | 一四 | 景行天皇御陵 |



湊町より乗車すること第五日の巡拜と同じ、
 王寺驛にて乗換へ、高田驛にて櫻井線に入り
 畝傍驛にて下車、白柄村大字四條なる綏靖天
 皇の桃花鳥坂丘上御陵に參拜同驛より直程
 約半里、之れより數町にて神武天皇の畝傍山
 東北御陵に向ひ、數町西行して安寧天皇の畝
 傍山西南御陵井上御陵、次いで東南方に道を
 どり懿德天皇の畝傍山南織沙溪上御陵經て神
 祖の大業を樹て給ひし檜原神宮に詣で更らに
 南行すること約半里、鳥屋村に至れば宣化天
 皇の身狭桃花鳥坂上御陵あり、此地より往路

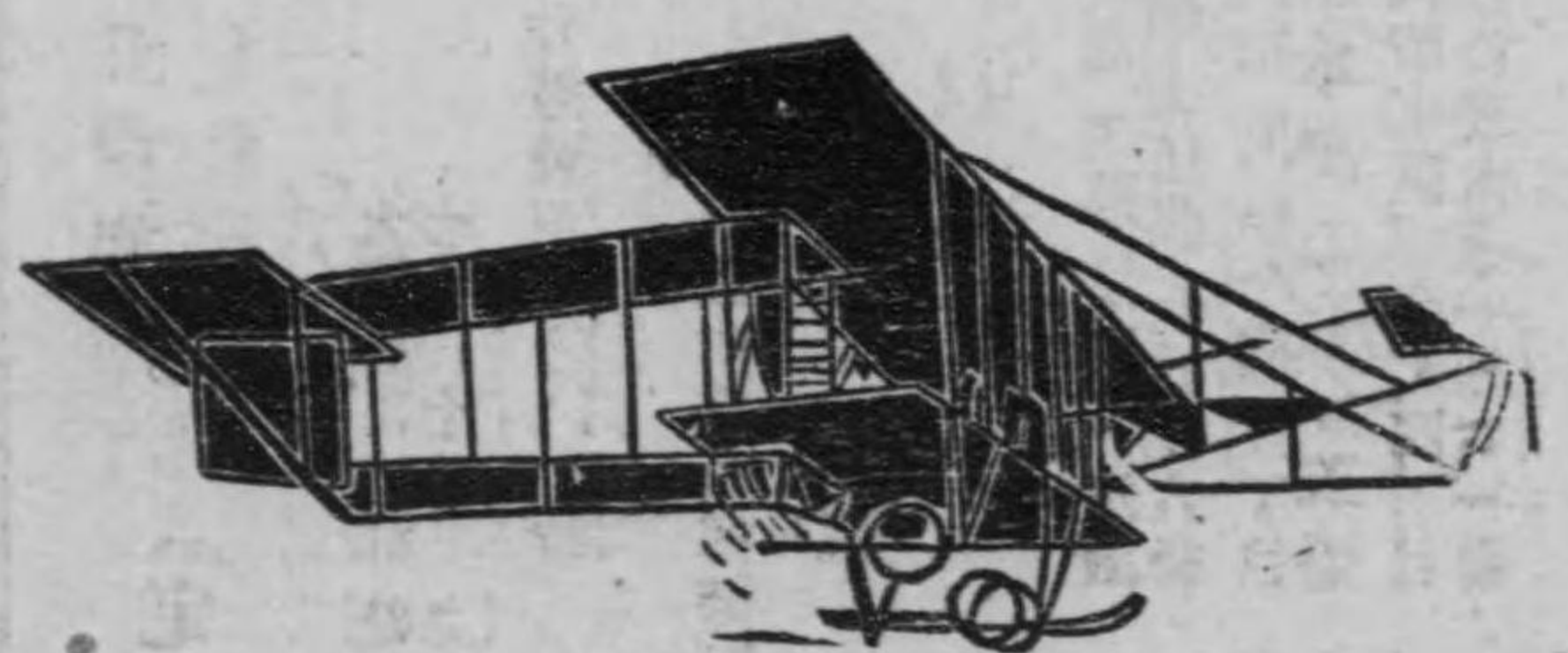
を戻りて久米寺の所在地なる久米を過ぎ約二十餘町にして孝元天皇の劍
 池鳥上御陵、再び道を返して石川より南に折れ二十餘町に欽明天皇の檜
 隈合阪御陵、下平田より里道を南へ約半里にして文武天皇の檜隈安古岡
 上御陵に至り參拜後下平田に戻りて東へ約半里に持統天皇、天武天皇の
 檜隈大内御陵を拜し、之れより橘寺、岡寺等の二名刹に賽し、山路を多
 武峰に至るか、或は之れより東北方へ約二里なる櫻井に東行するかは隨
 意、因みに次ぎの御陵は櫻井より多武峰への登路倉橋村にあり、且つ多
 武峰には藤原鎌足公を祀り其規模の壯重にして四邊の風光關西の日光と
 すら傳へらるゝ談山神社あり、櫻によく楓によければ天氣清明の日は多
 武の峰を経て至るべきか。
 畝傍驛より以上の諸陵を巡拜するに行路平坦なれば人車に賃するも可、

賃金は約一圓内外あれば可ならん。
即ち多武峰よりすれば約半里の坂路を下り、櫻井よりすれば約一里を上る倉橋村に崇峻天皇の倉梯岡上御陵あり、櫻井よりすれば人車通ず、賃金約五十錢、參拜後道を東北にとり約二十町忍坂に至りて舒明天皇の御陵を拜し西北に進み、長谷軌道宇陀ヶ辻停留場より乗車櫻井に向ふか、時間の餘裕あれば長谷軌道により長谷寺に參詣するも可、櫻井より長谷まで軌道三哩五、賃金十二錢、約二十分間に達す。
次ぎの御陵は櫻井より奈良方面に至る列車により柳本驛にて下車、驛より八町の地に崇神天皇の山邊道勾岡上御陵あり、之れより景行天皇の山邊道上御陵迄東南方約十町、同參拜後柳本驛より奈良行の列車によれば金次丹波市驛より東方約十町に天理故本郡、更らに八町塗に官幣大社石

上神社あり、時間の都合にて賽するもよし、之れより奈良を経て汽車或は電車の何れかにより歸途につか、或は之れも時間の都合により丹波市より天理教輕便軌道によりて、法隆寺に至りて法隆寺に賽し、觀楓の頃なれば更らに歩を延して龍田に遊ぶともそは意のまゝなるべし、但天理輕鐵丹波市より法隆寺迄五哩六、此の乗車賃金十五錢なり。

第八日の巡拜

以上七日の巡拜を以て近畿地方に於ける御陵の參拜は略ぼ盡きたる譯なり、之れより淡路にある淳仁天皇の淡路御陵に參拜すべく其行程は「補遺」中「淡路の風光」の項に述べたれば其項參照。(終)(大正七一稿)



大正八年四月五日印刷
大正八年四月十日發行

(定價金壹圓參拾錢)

著作權
所有

大阪府東成郡鶴橋町大字木野七番地
 著作兼發行者 野田文六
 印刷者 宮野孝恩
 大阪府東區博勞町一丁目二番地

發賣元

大阪府西區常安橋西詰
 電話土佐堀一八九六番
 大阪府東區今橋五丁目
 電話本局二三一五番
 大阪府東區博勞町四丁目
 振替口座大阪一四六一番
 文德堂
 小谷本店
 立川文明堂

3 /
607

終

